

---

# 国立 国会 図書館 月報

---

NATIONAL  
D I E T  
LIBRARY  
MONTHLY  
BULLETIN  
2020.1



万葉集の本いろいろ

国立国会図書館所蔵資料より

**新連載** 国立国会図書館で働いています

こども霞が関見学デー

# 新年のごあいさつ

国立国会図書館長 羽入 佐和子



謹んで新春のお慶びを申し上げます。  
年頭にあたり、皆様のご支援ご協力に心から感謝申し上げます。

国立国会図書館は現在中期ビジョン「ユニバーサル・アクセス2020」を掲げ、中期計画に基づいて活動を行っております。令和2（2020）年度はこの中期計画期間の最終年度に当たります。今年度は次期中期計画の策定を念頭に置いて国立国会図書館の機能の一層の充実に努めてまいります。

図書館は、情報環境がいかに変化しても「ユニバーサル（普遍的）」な存在で在り続け、さらに、所蔵する資料ができるだけ広く利用できる環境を整えておくことが重要と考え、平成28（2016）年末に「ユニバーサル・アクセス」をビジョンとしました。

国立国会図書館は昭和23（1948）年に設置された国会の一組織であり、その際に公布された「国立国会図書館法」の前文には、国立国会図書館の使命が次のように記されています。

「国立国会図書館は、真理がわれらを自由にするという確信に立つて、憲法の誓約する日本の民主化と世界平和とに寄与することを使命として、ここに設立される。」

この使命を遂行するために国立国会図書館に求められている役割は、基本的には、「国会活動の補佐」、「資料・情報の収集・保存」、「情報資源の利用提供」です。

ビジョンでは、次の点を重視してまいりました。

第一の「国会活動の補佐」については、国会議員の活動を的確に補佐すること、その効果的実現のために、情報を収集し体系化し分析する能力を持った人材を育成すること。

第二の「資料・情報の収集・保存」については、資料・情報を収集し、それらを体系的に整理して、長期に保存する仕組みを整備すること、また、国際動向を踏まえた制度の改善や図書館資料に関わる人々との協力関係を推進すること。

第三の「情報資源の利用提供」については、利用者が情報資源に容易にアクセスできるように

うに、最適な施設・設備・システムを開発し  
実装すること。

「昨年、このビジョンの一部でもある「障  
害者サービスの向上」において大きな前進が  
ありました。それは、昨年1月に「マラケシュ  
条約」（正式名称「盲人、視覚障害者その他

印刷物の判読に障害のある者が発行された著  
作物を利用する機会を促進するためのマラケ  
シュ条約）が発効したことに関連します。こ  
の条約は、視覚障害者等にとって利用しやす  
い様式の複製物（デジタル録音図書等）が、  
国境を越えて円滑に流通することを目的とし  
たものです。

国立国会図書館では、平成26（2014）  
年に国内での「視覚障害者等用データ送信  
サービス」を開始いたしました。これは、全  
国の図書館等が製作したデジタル録音図書等  
を収集して、当館が製作したデジタル録音図書等  
とともに、視覚障害者等にインターネット経由  
でご利用いただくサービスです。マラケシュ条  
約の発効を受けて、国立国会図書館では関係法

規を整備し、海外の図書館、個人もこのサービ  
スを利用できるようにいたしました。このよう  
な海外向けの送信、いわば「輸出」と併せて、  
国内の視覚障害者等による海外のデータの利  
用、いわば「輸入」ができるようにするため、  
国際的な総合目録を通じたデータの国際交換  
サービスを開始いたしました。

また、令和元（2019）年6月には、読  
書バリアフリー法（正式名称「視覚障害者等  
の読書環境の整備の推進に関する法律」）が  
公布されました。読書バリアフリー法の精神  
にも則り、障害の有無にかかわらず、全ての  
人がユニバーサルに情報にアクセスできる社  
会の実現に寄与していきたいと考えておりま  
す。

資料のデジタル化をはじめとする情報環境  
の変化に適切に対応しつつ、ユニバーサルな  
視点をもって今後も国立国会図書館の使命を  
堅実に果たしてまいりたいと存じます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

# 国立 国会 図書館 月報

NO. 705  
JANUARY  
2020  
CONTENTS

新年のごあいさつ

3 『<sup>へいか</sup>苹果品定』

―秋田県に結ぶ果― した西洋リンゴの品評記録―  
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から

7 万葉集の本いろいろ

国立国会図書館所蔵資料より

24 国立国会図書館で働いています n o . 1

27 こども霞が関見学ツアー

31 数字で見る国立国会図書館

23 本屋にない本

『上毛かるたの世界』

30 館内スコープ

「国立国会図書館って、すべての本があるんでしょう？」

35 NDL Topics

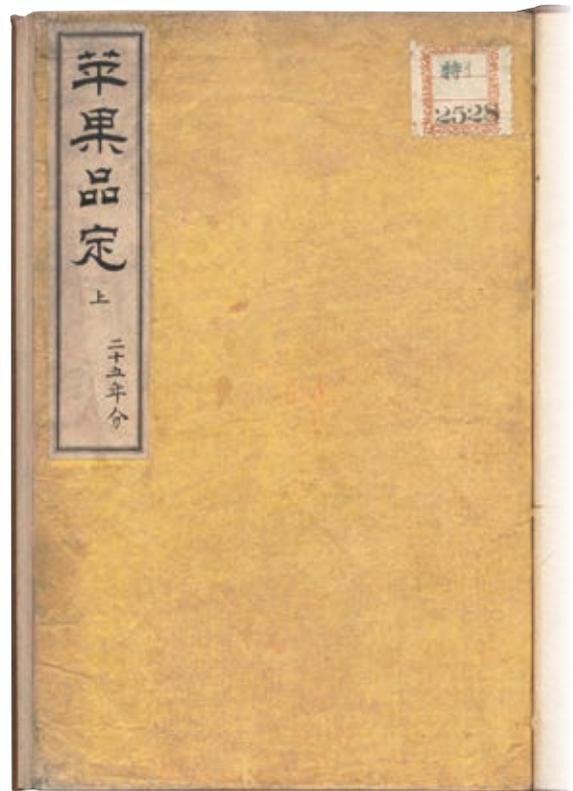


表紙：「松下孔雀図」  
『若冲名画集』伊藤若冲 画、田島志一 編  
関西写真製版印刷 明 37.10 49cm  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/850698/16> (モノクロ画像)

# へいか 『苹果品定』

—秋田県に結“果”した西洋リンゴの品評記録—

木屋美香



(右) 上巻表紙。

(左) 下巻より。上巻から下巻まで共通して最上品として掲載されている品種。なお本書では早生種、中生種、晩生種をそれぞれ早手、中手、晩手と呼んでいる。

## 苹果品定

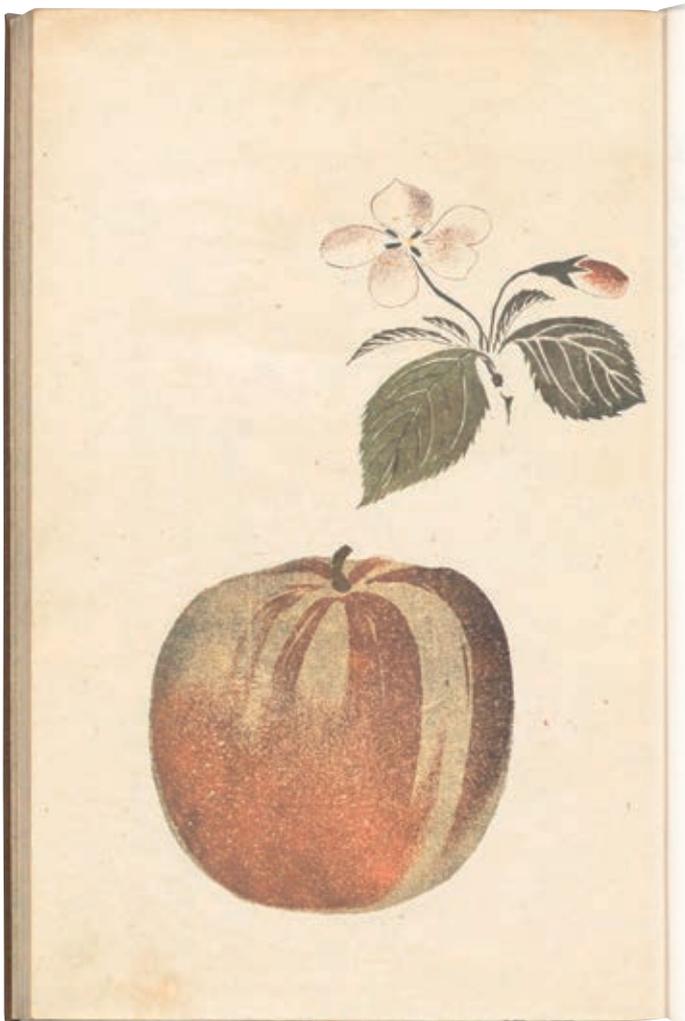
上 (25年分): 石川理紀之助 編 賛陽舎 (印刷) 1893.7 19cm <請求記号 特1-2528>  
中 (26年分), 下 (27,8年分), 後編: 石川理紀之助 編集・発行 明27-36 3冊; 19cm  
<請求記号 66-150>

「苹果」とは西洋リンゴのことで、『苹果品定』はリンゴの品評といった意味です。<sup>[1]</sup> 本書は、明治25(1892)年から秋田県で開催された苹果の品評会記録を中心に、苹果についての研究内容を前編3巻と後編にまとめたものです。編者・石川理紀之助(1845・1915)は、明治から大正初めに活躍した農業指導者です。

リンゴは、平安時代中期ごろには中国から日本に伝来したと考えられています。<sup>[2]</sup> 小ぶりの実を付け、現在では和リンゴ(地リンゴ)と呼ばれます。一方、中央アジアからコーカサス地方にかけて伝わり欧米で分化したものが西洋リンゴです。<sup>[3]</sup> ヨロッパでは4,000年以上の栽培歴があります。明治政府の主導で各地に広まり、「苹果」と名付けられました。この苹果を育種したものが、今日私たちが口にするリンゴです。

石川は、珍奇物扱いだった苹果を舶来当初から秋田県に適応した一大副産物となるべき果実と見込んでいました。しかし、高利を求めて気候や土地の生産力、種類の適否を考えなかったり、苗木名をごまかされて購入したり、栽培方法も良くなかったりしたため、良い結果を得た人は多くなかったのちに振り返っています。

苹果という新植物の研究を重ね、培養



(上・左上) 上巻より。第1回の品評会で最上品の筆頭選ばれた江間中手の様子と、その特徴の説明。美しい印刷で、苹果の表面の質感を表現している。



石川理紀之助、晩年の肖像。

石川理紀之助〔著〕 石川会、三井報恩会 編『石川翁農道要典』石川会〔ほか〕 昭14  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1265999/4>

石川は明治5(1872)年から約10年間、秋田県庁に勤務しました。秋田県では、各地域の老農を集めて明治11(1878)年に勸業会議を初開催しました。そこで提案された種子交換会は各地の諸植物の現品を持ち寄って一般に展示し、お互いに種子交換しようというもので、石川はその創設に貢献します<sup>4</sup>。その3か月後に開催された種子交換会は、のちに勸業集会も同時に行い、種苗交換会へと発展し、毎年開催の一大農業イベントとして今日に引き継がれています<sup>5</sup>。

明治15(1882)年、石川は山田村救済のために県の職を辞し、帰村します。さらに明治29(1896)年からは農村経済立て直しのため、部落単位でその土地や人々の調査を行う「適産調(てきさんしらべ)」に本格的に取り掛かりました。明治35(1902)年まで実施したこの大事業の報告書は731冊にも上ります。

者や苗木商が良いものを選定して広く培養・販売することが必要となり、明治24(1891)年、第14回種苗交換会の際に、品評会の開催を決定しました。

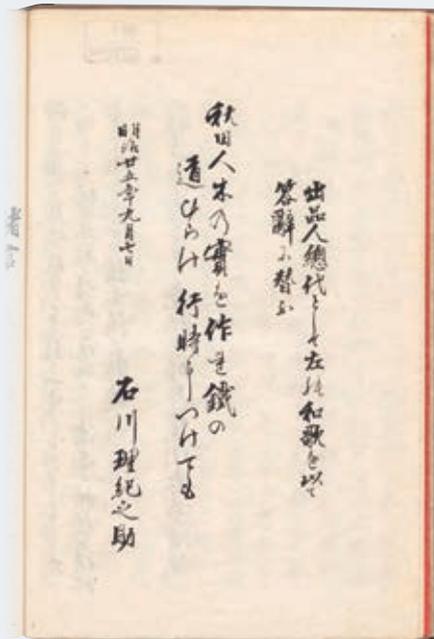
品評は五段階に分かれ、風味は主に生食で審査し、色や形などの特徴も調査されています。苹果名称対照表という各地での名称を一覧にした表からは、名称の違いによる混乱と苦勞が察せられます。各地での呼び名の違いを悪用されることも考えられたためか、苹果名称一定協議会が開かれ、逐次統一されていきました。

本書にはさらに、貯蔵期間の試験、販売景況などとともに、栽培に適する地勢、移植、剪枝、施肥、虫や兔の害まで栽培者自らの知識と経験に基づく情報が盛り込まれています。環境変化や技術開発によって主要な品種や栽培方法が様変わりした現在にも通じる、栽培者の心構えや研究姿勢が見え隠れします。

明治期の殖産興業政策は、勸農政策という形で果樹部門にも及びました<sup>6</sup>。植物園や試験場が設置されたり、博覧会が開催されたり、輸入作物が配布されたりもしました。本品評会は、それらの施策が地方に影響を及ぼした一事例ともいえるかもしれせん。有志で寄付金を募り、研究課題を設定

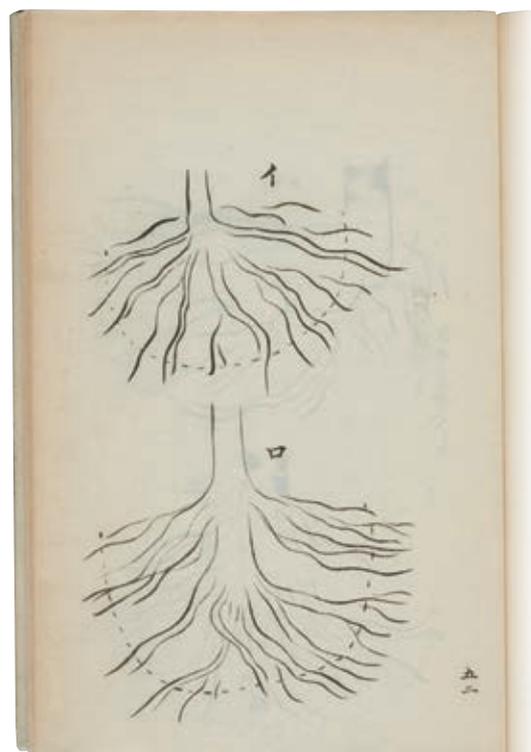


秋田人木の實を作れ鉄の道ひらけ行時につけても



上巻の冒頭に掲載された石川の短歌。

石川は、文人として自らの書を記したのみならず、多くの古書を書写して出版しました。歌人としては生涯で20余万首の和歌を詠んだと伝わり、その才能は高く評価されています<sup>8</sup>。上の歌は明治25（1892）年に開催された第1回苹果品評会の出品人総代として、答辞に替えて詠んだものです。この年の6月に制定された鉄道敷設法では、奥羽線の敷設が決定しており、前年には日本初の私鉄である日本鉄道が青森駅（当時、安方駅）まで延伸開業を果たしていました。



(上) 中巻より。リンゴの栽培では接ぎ木を行うが、石川はその台木の研究も行った。この図は最良品として選ばれた台木の葉の特徴を示したもの。  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/840300/54> (モノクロ画像)  
 (下) 下巻より。森川源三郎による移植法の一部。注意点を図を用いて説明している。  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/840301/56> (モノクロ画像)

1 本書には「へいか」のよみが付されていますが、明治期の出版物には「をほりんご」「ひやうくわ」「りんご」といったよみも見かけます。

竹中卓郎 著『舶来果樹要覧』大日本農会三田育種場 明17.8  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/840273/24> (モノクロ画像)

青柳浩次郎 著『果樹栽培法』東京農書館 明31.3  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/840054/16> (モノクロ画像)

池本文雄 著『実験応用果樹栽培書』裳華房 明35.4  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/840046/17> (モノクロ画像)

2 田中正武「リンゴの起源と伝播」青葉高【ほか】編『園芸植物大事典 5(メテ〜ワン)』小学館 1989.12 pp.597-598<請求記号 RB2-E11>

ただし、伝来時期は平安時代末期から室町時代という説もある。  
 小林章 著『文化と果物』養賢堂 1990.5 p.167-170<請求記号 DM227-E34>

工藤 亞義「身近な野菜・果物—その起源から生産・消費まで(13)リンゴ(1)」日本食品保蔵科学会 編『日本食品保蔵科学会誌』37(1) 2011.1 p.29-34<請求記号 Z18-1101>など

3 阿部和幸「第19章 リンゴ」鶴飼保雄、大澤良 編『品種改良の世界史 作物編』悠書館 2010.12 pp.463-485<請求記号 RB31-J36>

4 石川理紀之助【著】石川会、三井報恩会 編『石川翁農道要典』石川会【ほか】昭14

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1265999/81>

5 『秋田県種苗交換会史 明治編』秋田県農業協同組合中央会 1967<請求記号 615.4-A367a>

『あきた』通巻139号 1973年(昭和48年)12月1日  
[http://common3.pref.akita.lg.jp/koholib/search/html/139/139\\_032.html](http://common3.pref.akita.lg.jp/koholib/search/html/139/139_032.html) (最終アクセス: 2019年11月26日)

6 『青森県りんご発達史 第1巻』青森県 1958 pp.1-107<請求記号 625.21-A6133a>

7 『果樹品種名雑考』農業技術協会 1983.4 p.5<請求記号 RB161-70>

8 安藤和風 編『秋田の土と人 人の巻』秋田郷土会 昭和6

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1173624/30>

○参考文献

鈴木宏 編著『秋田りんごの100年』秋田県果樹協会 1976<請求記号 DM227-37>

『リンゴ(果樹園芸大百科2)』農山漁村文化協会, 2000.2<請求記号 RB164-G3>  
 阿部和幸「第13章 リンゴ」鶴飼保雄、大澤良 編『品種改良の日本史』悠書館 2013.5 pp.379-411<請求記号 RB57-L3>



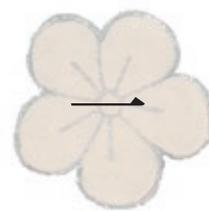
# 万葉集の本いろいろ

国立国会図書館所蔵資料より

昨年5月、元号が令和に改まりました。新しい元号が発表された際、出典が漢籍ではなく、万葉集であることも話題になりました。

国立国会図書館では、江戸時代以降の万葉集に関する資料を多数所蔵しています。令和初めのお正月号では、それらを一挙にご紹介します。

全7種で「令和」の由来を見比べよう！



# 江戸時代の版本

『万葉集』は奈良時代に成立した日本最古の歌集で、全20巻に4500首余りの歌をおさめます。一度に編纂されたものではなく、7世紀末に巻1の前半、ついで巻2までが成立し、その後何かにわたる増補をへて、8世紀末に大伴家持により20巻の形となりましたと考えられています。

今では誰もが親しむことができ『万葉集』ですが、室町時代までの約800年間は書写された本によって伝えられていたため、限られた人しか見ることができない

ものでした。『万葉集』の普及に大きな役割を果たしたのは江戸時代の出版文化です。江戸時代初期の17世紀初めには古活字版による出版が行われ、さらに17世紀半ばには増刷のしやすい整版で出版されるようになり、江戸時代を通じて7種類の『万葉集』が出版されました。

この章では、当館が所蔵する7種類すべての版本をご紹介します。

「令和」の由来は、『万葉集』巻5「梅花歌卅二首并序」の序文にある「初春令月氣淑風和」です。これは、天平2（730）年正月13日に大宰府の長官である大伴旅人邸で開かれた梅花の宴で詠まれた歌に付された漢文の序の一部で、「新春の佳い月、空気が美しく風は穏やか」といった意味です。この序には、張衡「帰田賦」（『文選』）や王羲之「蘭亭集序」といった漢籍の影響が見られます。

## 整版と古活字版

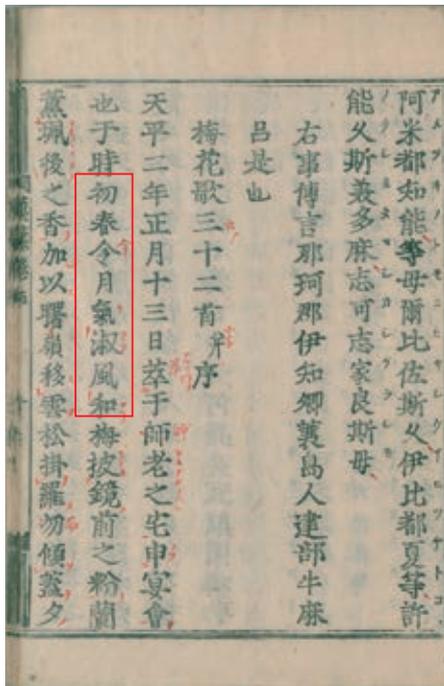
奈良時代から明治初期まで、日本の出版物のほとんどは、一枚の板（版木という）に文字や絵を彫って印刷し、刊行されました。これを整版といいます。

ところが、室町時代末から江戸時代初期の約50年間に限っては、活字による出版が盛んに行われました。これを古活字版といいます。

古活字版は、朝廷、幕府、寺院、篤志家等による、おそらくはごく少数の刊行で、活字印刷はこの規模に適していました。しかし、寛永（1624-44）頃から書物の需要が増大し、商業出版も盛んになると、そのつど活字を組みなおす必要があり、増刷ができない活字印刷はそれに対応できず、版木で刷る整版による出版が再び主流となっていきました。



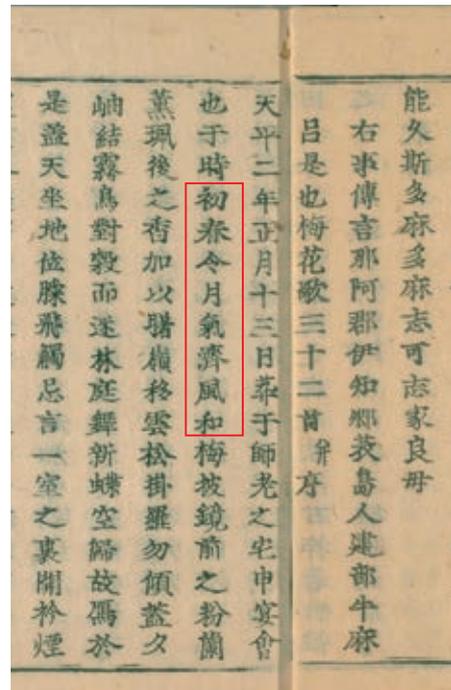
整版の版木



(2) 万葉集 20卷

[慶長元和年間 (1596~1624)] 20冊 古活字版  
付訓本<請求記号 WA7-109>  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2544287/15>

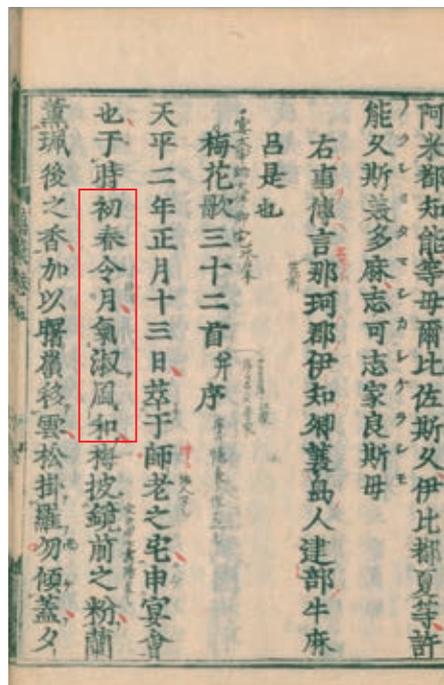
(1) には読みが無かったため、片仮名の読みを右傍に添えたものが続いて出版されました。この版も古活字版で、読みも活字で組まれています。



(1) 万葉集 20卷(卷1・2欠)

[慶長年間 (1596~1615)] 9冊 古活字版 無訓  
本<請求記号 WA7-47>  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2569911/15>

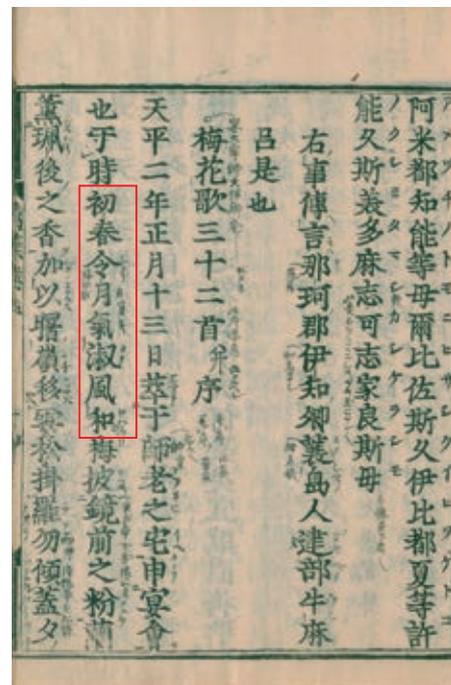
最初に出版された古活字版の『万葉集』です。儒学者・林羅山の写本を底本として、徳川家康の出版事業である伏見版の活字を使用しているとされます。



(4) 万葉集 20卷

出雲寺和泉掾 宝永6 (1709) 年 20冊 整版<  
請求記号 せ-113>  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2553199/16>

(3) と同じ版木を使って印刷されたものですが、版元が出雲寺和泉掾に変わっています。出雲寺和泉掾は江戸時代の有力書肆で、これ以降 (5) ~ (7) の出版にはすべて出雲寺が関わっています。



(3) 万葉集 20卷

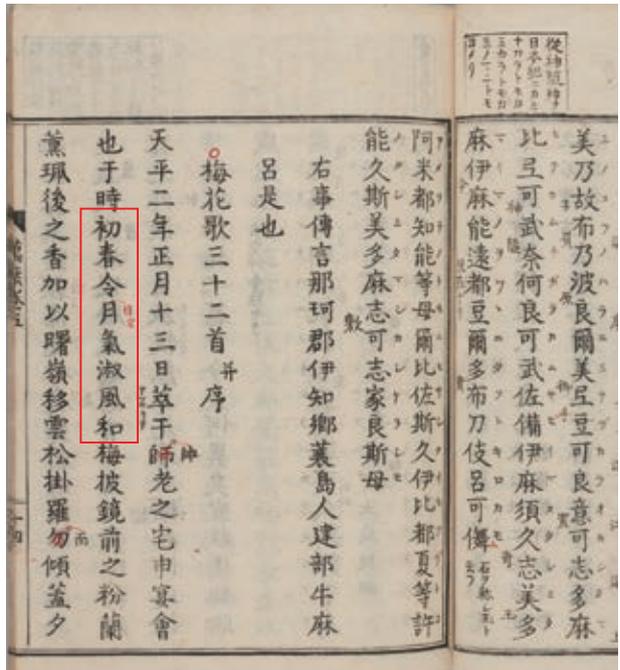
安田十兵衛 寛永20 (1643) 年 20冊 整版  
<請求記号 857-47>  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2579473/21>

(2) の古活字版を版下にして作られた整版で、版面は (2) を踏襲しています。江戸時代の社会の発展とともに書物の需要が増えたことにより、増刷しやすい整版で出版されたと考えられます。

# 今月

## どうして漢字ばかりなの？

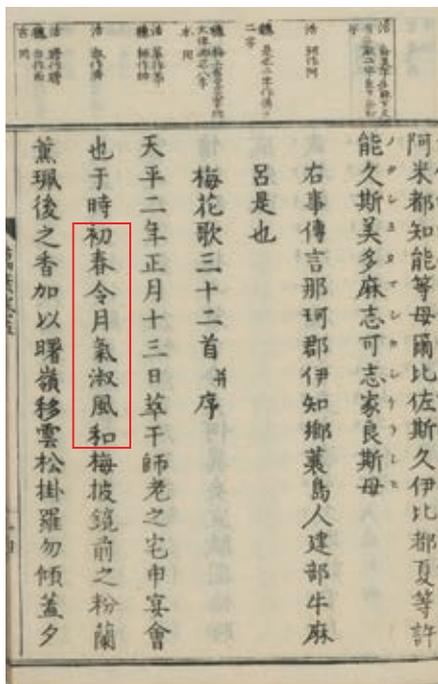
万葉集が編纂されたのは、平仮名、片仮名が作られる前です。そのためすべて漢字を使って記されていました。「新年（あらたしきとし）」のような現在にも通じる表記もありますが、「波都波流（はつはる：初春）」のように、音を表すために漢字を用いているのが万葉集の特徴で、万葉仮名と呼ばれます。万葉仮名には「雲谷裳（雲だにも）」のように訓を使ったもの、「孤悲（こひ：恋）」のように漢字の意味も踏まえながら音をあてたものもみられます。「山上復有山（いで：出＝山＋山）」「十六（しし：4×4＝16）」など謎解き遊びのようなものもありますよ。



### (5) 万葉集旁註 20巻

恵岳注 出雲寺和泉掾・出雲寺文治郎 寛政元(1789)年 20冊 整版<請求記号 141-34>

(3) (4) の版木が、天明8 (1788) 年の京都大火で焼失したため、新たに彫り直されたものです。版式は (4) までと同様ですが、本文の傍らや上欄に、真言宗の僧、恵岳 (1719-1789) の注が加えられています。

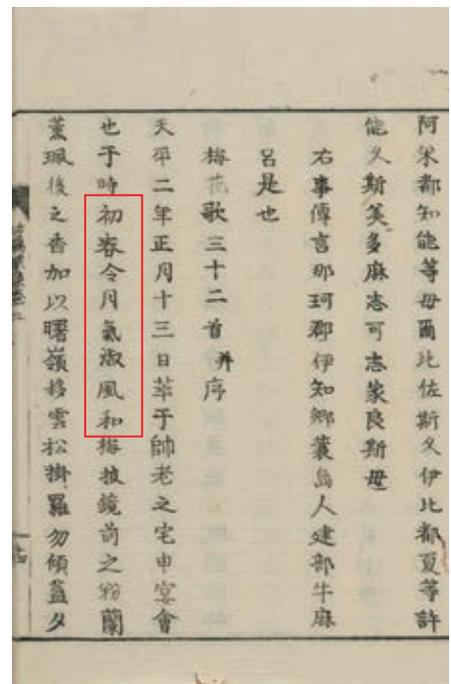


### (7) 万葉集 20巻

橋本経亮・山田以文 校 出雲寺文治郎 文化2(1805)年 20冊 整版<請求記号 W63-N6>

(5) と同じ版木を使って印刷されていますが、評判の悪かった恵岳の注が削除されており、上欄には、京都梅宮社の神官で国学者の橋本経亮 (1755-1805) が元暦校本<sup>\*</sup>等の諸本と比較した校異を記しています。

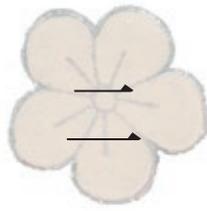
<sup>\*</sup> 平安時代後期の写本で、巻20の奥書に元暦元(1184)年に校合した旨が記される。



### (6) 古万葉集 20巻

今村楽・横田美水 校 享和3 (1803) 年序 20冊 木活字版<請求記号 W63-N18>

土佐藩士で国学者の今村楽 (1765-1810) らが出版したもので、整版ではなく木活字が使われています。(5) の恵岳の注が賀茂真淵説に批判的であったのに反発しての出版と考えられ、漢字本文のみが印刷されています。



## 江戸時代の注釈書

前章で紹介したように、江戸時代には『万葉集』の印刷が行われるようになりましたが、注釈なしに『万葉集』を理解することは困難です。そこで江戸時代には国学の進展とともに、多くの注釈書が作られました。この章では、当館が所蔵する江戸時代の注釈書類をご紹介します。

注釈書の紹介にあたっては、例として、下記の額田王と大海人皇子の歌をとりあげました。この歌は今でこそ万葉集の中でも最も有名な歌の一つとなっていますが、江戸時代以前はそうではありませんでした。江戸時代の注釈書をひもとくと、近代の解釈に至るまでに、さまざまな興味深い解釈が行われていたことがわかります。

あかねさす紫野行き標野行き野守は見ずや君が袖振る

額田王(巻1:20番歌)

(あかねさす)紫野の中を行き、標野の中を行って、野守は見ているではありませんか、あなたが袖を振るのを。

紫のにはへる妹を憎くあらば人妻ゆゑに我恋ひめやも

大海人皇子(巻1:21番歌)

紫草のように美しいあなたを憎いと思つたら、人妻であるのに、私はかくも恋しく思うだろうか。

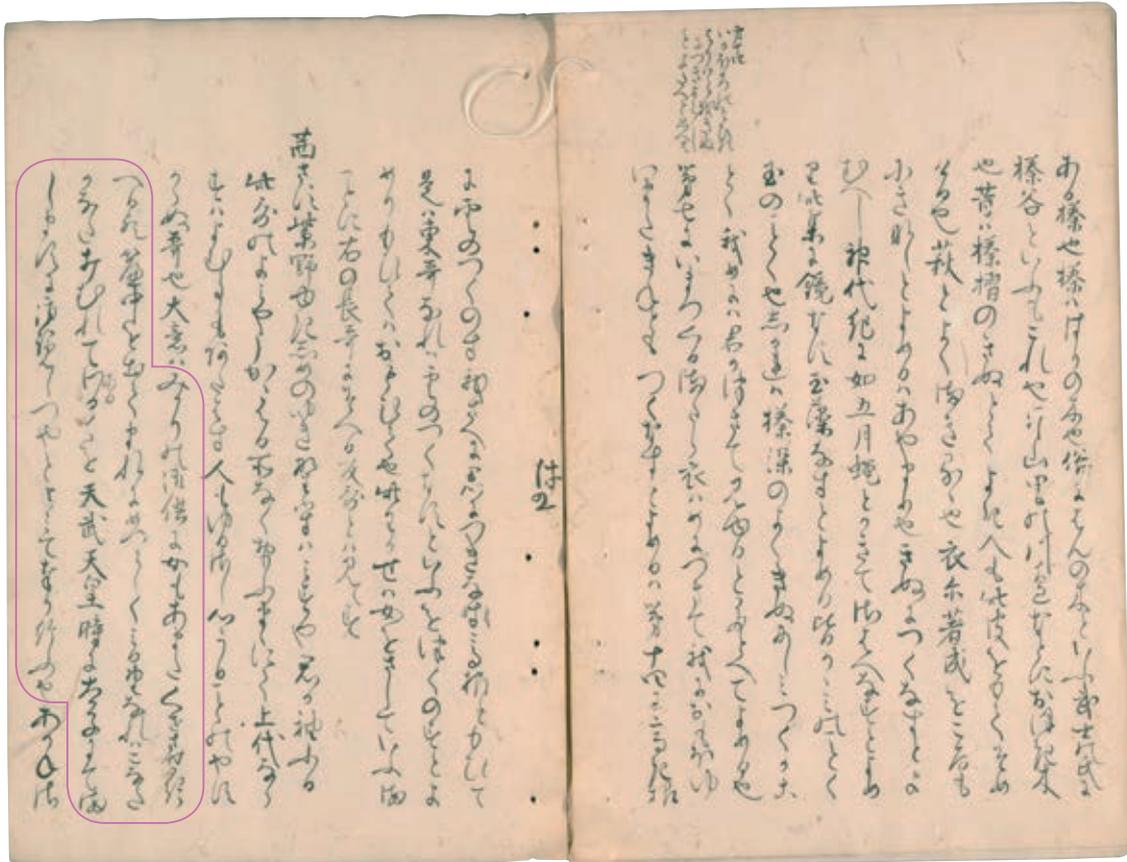
天智天皇の7(668)年5月5日に、天皇が近江の蒲生野で葉草や鹿の袋角を採取する葉狩を行われた際に、額田王と大海人皇子(後の天武天皇)が詠み交わした歌です。

現在では、葉狩行事後の宴席で披露された座興の歌という解釈が通説となっていますが、額田王が大海人皇子の別れた妻であり、かつ、天智天皇(大海人皇子の兄)の妻となっているという複雑な人間関係が想定されることから、この歌は多くの文学者や作家の想像力を刺激し、井上靖『額田女王』、里中満智子『天上の虹』など、この3人の恋愛ドラマを題材とした数々の作品が生み出されています。

読み下し及び訳は佐竹昭広[ほか]編『新日本古典文学大系 1』(岩波書店 1999.5)より。



みかりの御供に女もあまたくせさせ給へるか、簾中を出てまれにめつらしくみる野なれば、こなたかなた打むれてあるくを、天武天皇、時に太子にてましますに、御覽しつやとよみて奉り給ふ也。



### 万葉代匠記

契沖 著 加藤枝直 写 21冊<請求記号 ぞ-10>  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2552054/4>

『万葉代匠記』は契沖が水戸の徳川光圀の依頼により著したもので、『万葉集』の全歌に注釈を施しています。初稿本とそれを改訂した精撰本がありますが、ともに出版はされず、初稿本の系統が写本として流布しました。当館所蔵本も初稿本の系統で、江戸中期の国学者・歌人である加藤枝直(1692・1785 橘千蔭(15頁)の父)による写本です。

契沖は額田王を男性とみています(女王ではなく王と称されています)。したがって、この歌は男女間の恋愛歌ではなく男性どうしのやりとりと理解され、額田王が「葉狩のお供の女性たちがあちこち打ち群れて歩いていますが、お目にとまりましたか?」と問いかけたのに対して、大海人皇子が「紫のことにほへる妹をきらはしくおもふ(美しい女性を嫌う)」わけではないので、とても魅了されていますよと返したと捉えられています。

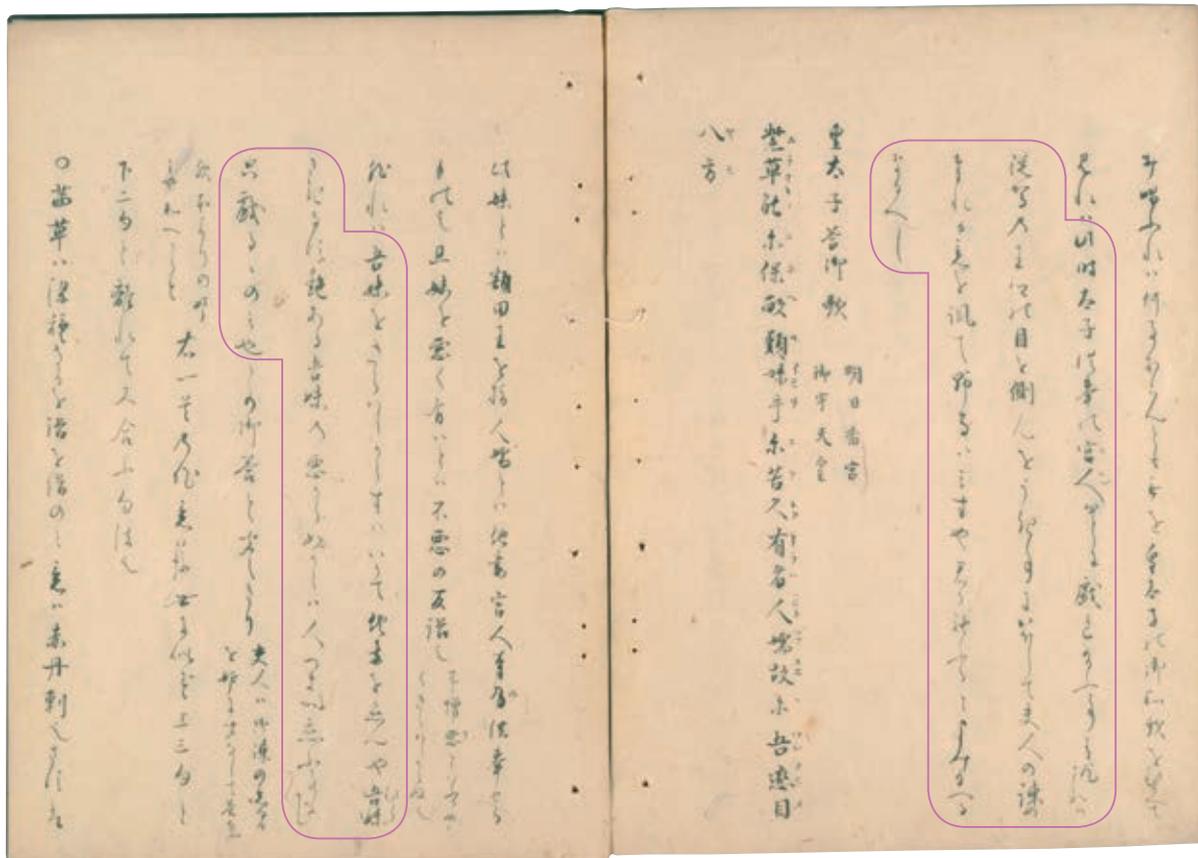


けいちゅう  
**契沖**(1640-1701)

江戸前期の国学者。僧侶。摂津尼崎の生まれ。万葉集と仮名遣いを中心に古典を研究、国学の始祖と称される。

契沖から橘千蔭(15頁)の肖像:原得齋 編『先哲像伝 第4冊』 写<請求記号 か-74>  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2551755>  
 伴信友(16頁)の肖像:栗原信充 画『肖像集 8』 写<請求記号 寄別4-2-1-1>  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1287793>

此時、太子供奉の宮人などに戯れ給ふ事有か。されは從駕の王卿の目を側んをうき事におほして夫人の諫め奉れる意を諷て野守はみすや君か袖ふるとよみ給へるなるへし。



吾妹をきはしからすは、いかて他妻を恋んや。むらさきなす艶ある吾妹の悪からぬからは人つまに恋ふ事なし、只戯るゝのみ也

## 万葉解

賀茂真淵 著 自筆 1冊<請求記号 寄別13-33>  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2541208/63>

『万葉解』は、賀茂真淵が上野寛永寺の妙法院宮の命をうけて、寛延2（1749）年53歳にて著したもので、巻1の途中までの注釈です。真淵の独創的な見解は晩年の『万葉考』に結実しますが、本書は真淵の万葉学の前半の集大成とされます。当館所蔵本は真淵の自筆とされています。

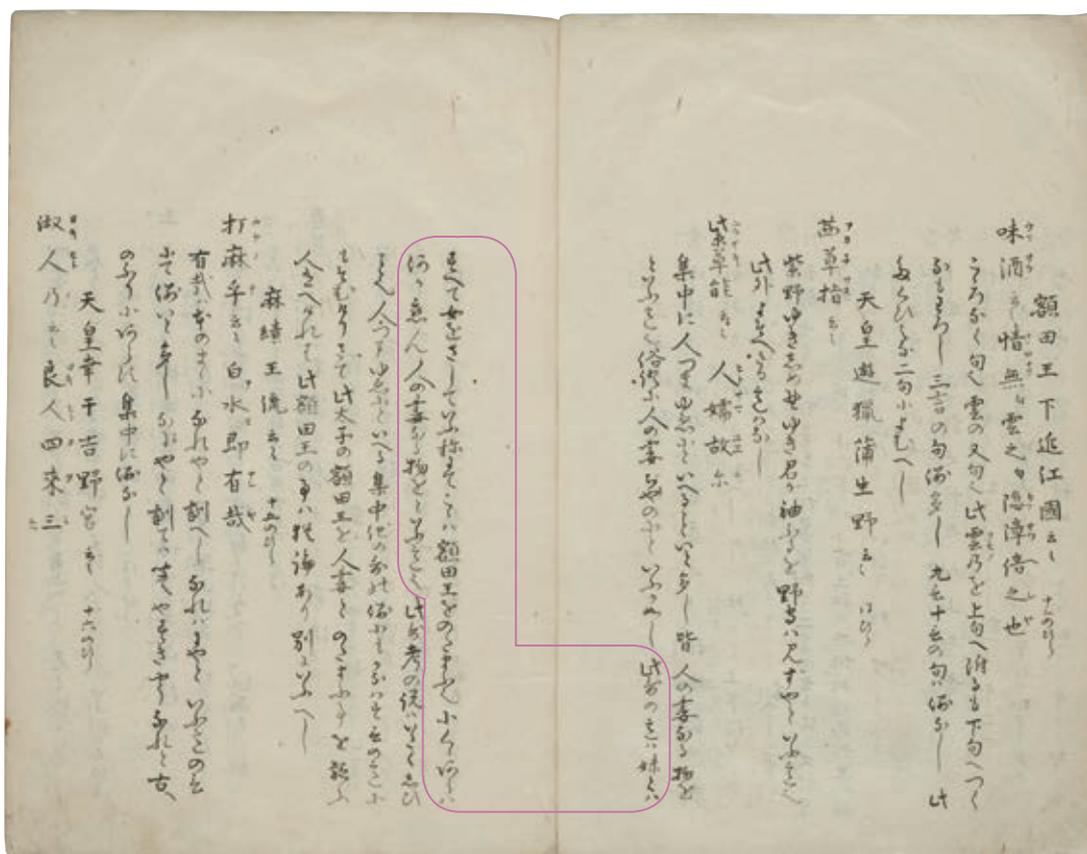
大海人皇子が葉狩のお供の女性たちに戯れているのをみて、妻である額田王が「野守はみすや（見られていきますよ）」と諫め、それに対して、大海人皇子が「吾妹をきはしからすは、いかて他妻を恋んや（あなたが嫌いではないのだから、どうして人妻に恋などしましよう）」と弁解したものと解釈されています。



かものまぶち  
**賀茂真淵** (1697-1769)

江戸中期の国学者、歌人。遠江国数智郡浜松庄の生まれ。古典の中でも万葉集を重視し、古道の復活を提唱した。

此哥の意は妹とはすへて女をさしていふ称にて、こゝは額田王をのたまふ也。にくゝあらは何か恋ん、人の妻なる物をといふ意也。



### 万葉集玉乃小琴

本居宣長 著 写 1冊<請求記号 141-31>

『万葉集玉乃小琴』は万葉集巻1〜4の注釈書で、師である真淵の説を補正するために著されたものです。出版されたのは宣長没後の天保9（1838）年ですが、その前から写本として流通しており、当館所蔵本もそうした写本のひとつとみられます。

宣長は真淵とは違って、額田王を天智天皇の妻とみています。つまり、大海人皇子にとって額田王は兄の妻であるわけですが、現在

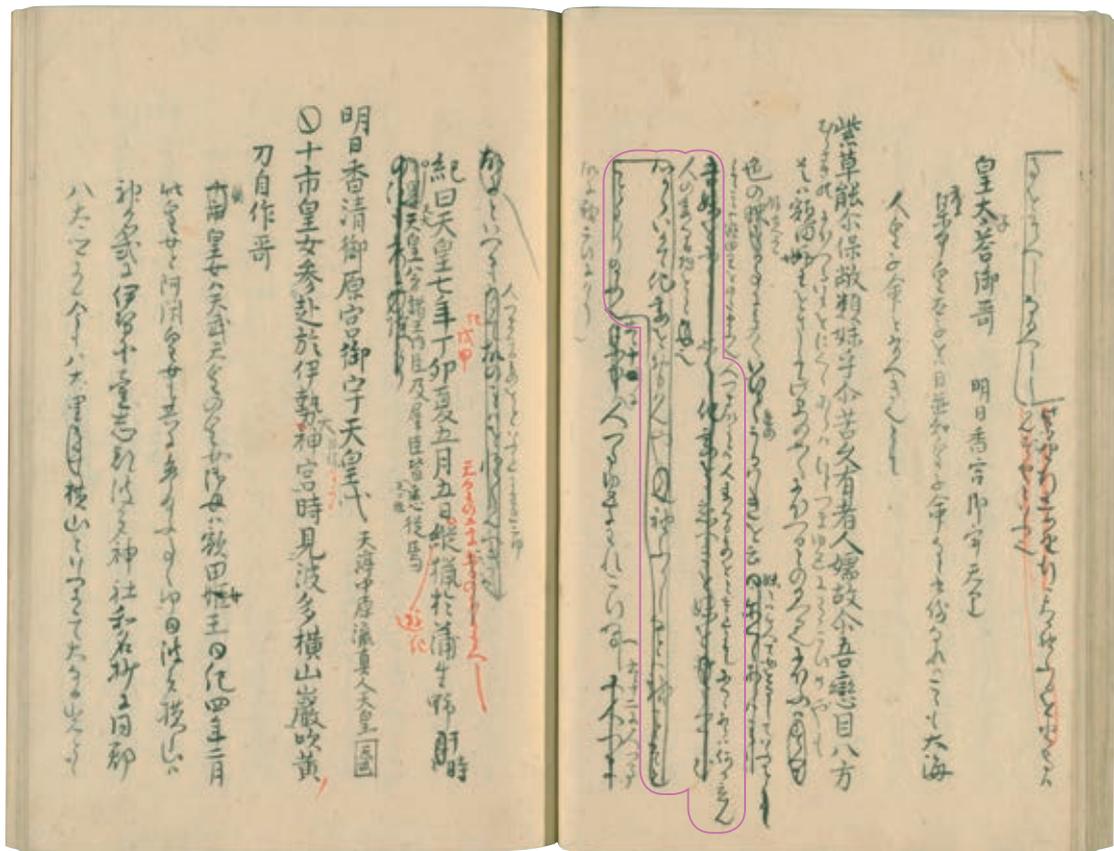
の解釈とは異なり、額田王が大海人皇子（天武天皇）の妻となったのは天智の没後と考えています\*。宣長の解釈では、この時点では額田王は大海人皇子の別れた妻ではありませんので、人妻（兄の妻）であっても額田王に惹かれずにはいられない大海人皇子の恋愛感情のみがシンプルに捉えられるように感じられます。



もとおりのりなが  
本居宣長 (1730-1801)

江戸中期の国学者。医者。伊勢松坂の人。賀茂真淵に入門し、古道研究を志し、実証的な古典研究を進めた。国学の大成者といわれる。

\* 本居宣長著『玉勝間』巻2「鏡女王額田王」



吾妹をにくしと思は、他妻をも恋へきを、妹をうつくしむ心から、いかて他妻をおもはんや、袖ふりしなどは戯れこととことわり給ふ也。  
 人つま故にとは人妻なるものと云意にて、にく、あらは何か恋ん、人の妻なる物をと也。

### 宣長と千蔭

宣長と千蔭は同じ真淵門下ながら面識はありませんでしたが、宣長の『万葉集玉乃小琴』をみた千蔭は書簡を送り、自身の注釈に宣長の説を採用したいと願ひ入れます。宣長は千蔭の依頼に快く応じて『万葉集略解』の稿本ができるごとに意見を書き送りました。宣長没後の文化元(1804)年70歳となった千蔭は、『万葉集略解』を幕府に献上するという栄誉を得ますが、宣長の協力に感謝して褒美金の一部を宣長の霊前に供えています。



ちかげ ちかぢ  
 橘 千蔭 (1735-1808)

江戸中期の歌人、国学者。加藤氏。賀茂真淵の門人。江戸町奉行所与力を勤めたが、退職後は和歌および国学に専念した。

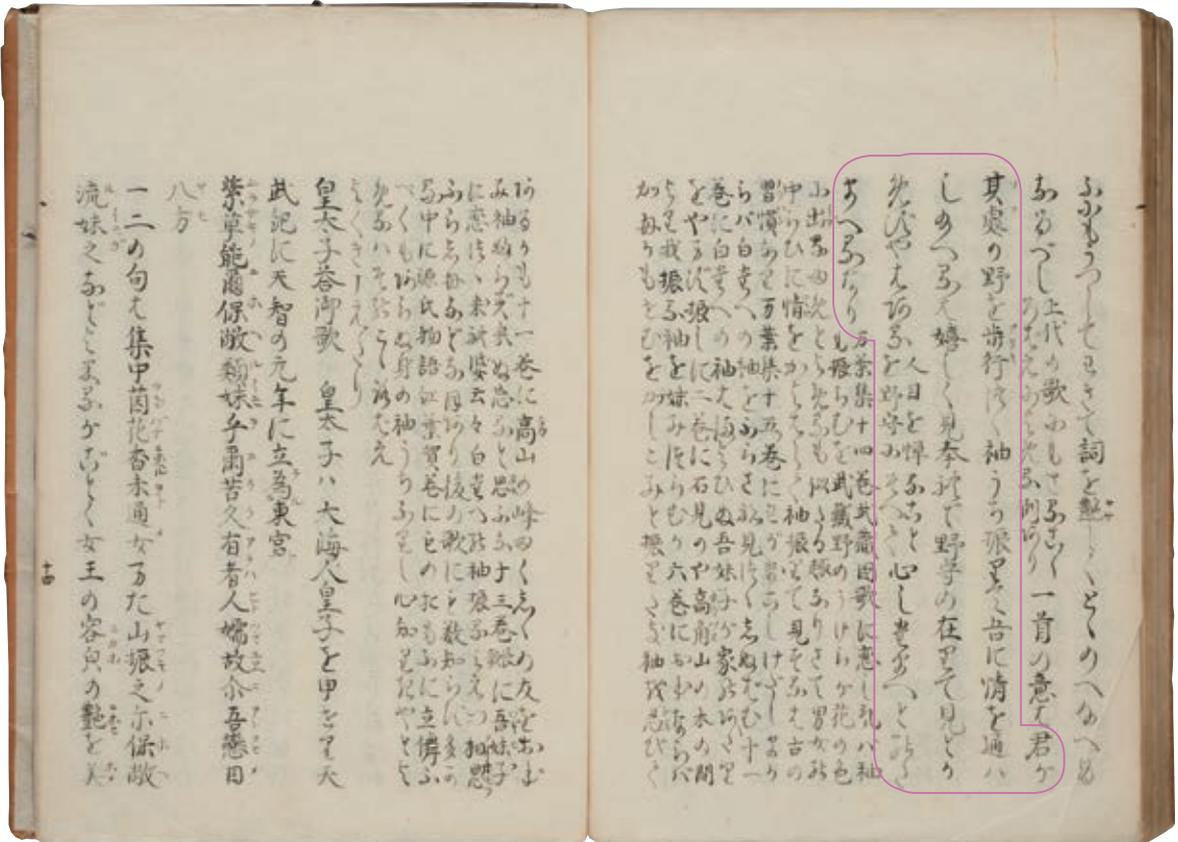
### 万葉集略解 卷1,3-5,11上,13,17-20

橘千蔭 著 自筆 11冊<請求記号 WA18-6>  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2570325/45>

『万葉集略解』は『万葉集』全歌の平易な注釈書として近代まで広く用いられ、万葉集の普及に大きな役割を果たしたものです。千蔭は天明8(1788)年に54歳で江戸町奉行所与力を退職しますが、翌々年、寛政改革により百日間の閉門を命じられます。『万葉集略解』は、その閑暇に執筆を思い立ったもので、寛政3(1791)年起稿、同12年に浄書が完了し、千蔭没後の文化9(1812)年には全巻の出版が完成しました。当館は自筆稿本を

所蔵しています。千蔭は、師の賀茂真淵説をはじめ、契沖、本居宣長、村田春海らの諸説を参照しており、とりわけ宣長には稿本ができることに示して助言を求めました。この歌の解釈についても、最初は「妹をうつくしむ心から、いかて他妻をおもはんや」という真淵の説を記していますが、それを消して「にく、あらは何か恋ん、人の妻なる物を」という宣長の説に訂正していることがわかります。

君が其処の野を歩行つ、袖うち振りて吾に情を通はし給へるは、嬉しく見奉れど、野守の在りて見とかめずやはある……心したまへとのたまへるなり。



附録巻4 三山考論

### 長等の山風 2巻附録4巻

伴信友 著 写 6冊 (合2冊) <請求記号 128-186>

『長等の山風』は『万葉集』の注釈書ではなく、大友皇子とその子孫の事蹟について考証を行ったものですが、『万葉集』の額田王の歌などもとりあげられています。文化11(1814)年から文政2(1819)年の間に成立しましたが、出版されることはなく、写本として伝わっていました。

信友は、大海人皇子と額田王の孫にあたる葛野皇子の年齢から、額田王は初め大海人皇子の妻となり、その後、天智天皇の妻となったことを考証しました。つまり、この歌の時点で額田王は大海人皇子の別れた妻であり、かつ天智天皇の妻というこ

とになり、ここによりやく近現代の解釈に通じる三者の関係が導き出されたといえます。信友は、額田王をめぐる兄弟の確執が壬申の乱の契機となったのではないかとまで推測しています。

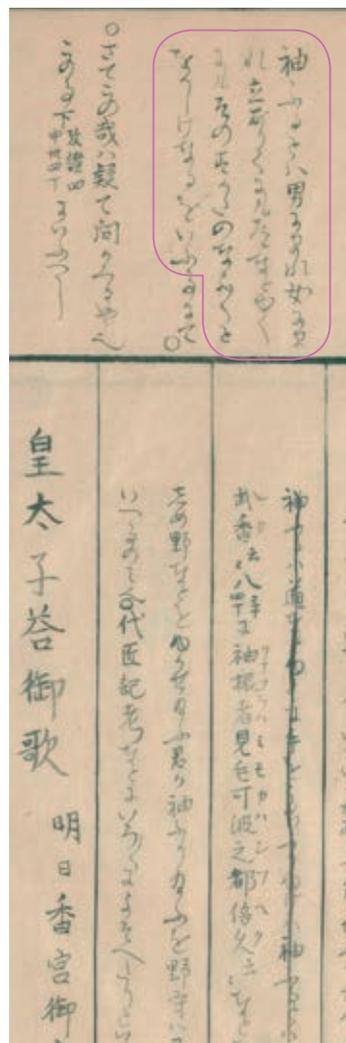
歌の解釈において、信友は「君が……袖うち振りて吾に情を通はし給へるは、嬉しく見奉れど……」と額田王の心情を読み込んでいます。こうした信友の解釈を端緒として、大海人皇子と額田王の禁断の恋のイメージが膨らんでいったといえるでしょう。



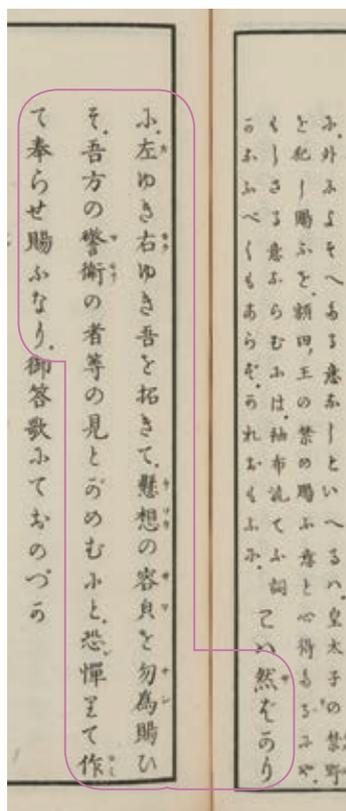
ばんのぶとも  
伴信友 (1773-1846)

江戸後期の国学者。若狭小浜藩士。本居宣長没後の門人。宣長門下の中でも最も考証学に長じたとされる。

袖ふるとは、男にまれ女にまれ、立ありくにも道なとゆくにも、そのすかたのなよくとをかしけなるをいふ



然ばかりに、左ゆき右ゆき吾を招きて、懸想の容貌を勿為賜ひそ、吾方の警衛の者等の見とがめむにと、恐懼りて作て奉らせ賜ふなり。



## 万葉集攷証

岸本由支流 著 稿本 14冊 (合5冊) <請求記号 WA18-22>  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2570340/41>

『万葉集攷証』は巻1から巻6の注釈書で、文政6(1823)年36歳にて起稿し、2度の火災にあいながら文政11(1828)年まで執筆されています。従来の諸説を細かく列挙し、漢籍の引例の多さでは『万葉集』注釈書の中でも随一とされます。当館所蔵本は著者家蔵の稿本です。

額田王については、真淵説(額田王=大海人皇子の妻)と宣長説(額田王=天智天皇の妻、後に大海人皇子の妻)を並記して、「見人、心のひかん方にしたがふべし」と読者の判断に委ねています。歌の解釈では、「袖ふる」動作を愛情表現とは捉えず、「(男女とも)そのすかたのなよくとをかしけなるをいふ」としているのが、真淵や宣長との相違です。大海人皇子の歌の「人妻」が誰を指すかも特定しておらず、恋歌としての踏み込んだ解釈は保留しています。

岸本由支流 (1788-1846)  
 江戸後期の国学者。伊勢国朝田村の生まれ。幕府弓弦師・岸本家の養子となる。3万巻といわれる蔵書を持ち、文献学的考証を行った。



鹿持雅澄 (1791-1858)  
 江戸後期の国学者、歌人。土佐藩士。生涯、土佐を離れることなく、ほとんど独学で万葉集の研究を行った。

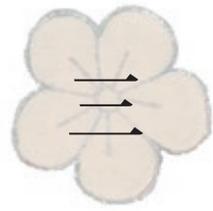
## 万葉集古義 第1巻 上地

鹿持雅澄 著 宮内省 [明治19(1886)年] 1冊 <請求記号 16-96>  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/874193/74> (モノクロ画像)

『万葉集古義』は近世万葉学の集大成といわれる注釈書で、巻1から20までの注釈95冊に、総論、人物伝など46冊を加えた全141冊にも及ぶ大部な著作です。雅澄が生涯をかけて著わしたこの著作は、雅澄の生前に出版されることはありませんでしたが、明治維新後、明治天皇の目にとまることとなり、宮内省から木版本が出版されました。

雅澄は、天智天皇、大海人皇子、額田王の三者の関係については伴信友の説を踏襲していますが、信友とは異なり、大海人皇子の思慕をうけた額田王の心情については「恐懼りて」と困惑の思いを読み取っているようです。

上図は紫草。鹿持雅澄著『万葉集品物図絵』 清書本 3冊 <請求記号 WA18-23>より。  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2545189/44>



# 海外で紹介された万葉集

『万葉集』は、シーボルトが持ち帰った書物の中にも含まれており、早くから海外において紹介されてきました。明治前期までには、フランス語、ドイツ語、英語への翻訳も始まっており、ヨーロッパの東洋学者たちが日本古代の重要な詩歌集として『万葉集』に注目していたことがわかります。

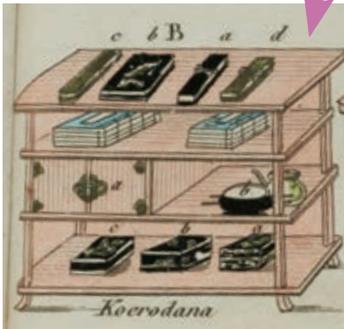
この章では、海外で紹介された『万葉集』に関する資料のうち、初期のものを紹介します。

## ティチング『日本風俗図誌』1822年刊

Cérémonies usitées au Japon, pour les mariages, les funérailles, et les principales fêtes de l'année : suivies d'anecdotes sur la dynastie régnante des souverains de cet empire / ouvrage traduit du japonais par M. feu Titsingh  
Paris : Nepveu, 1822 <請求記号 GB341-A3>



第1巻挿絵3 中央右が黒棚



第1巻挿絵9 黒棚

Sur le *nino-tana*, ou la seconde planche,  
a. L'ouvrage *kokin-ziou*.  
b. L'ouvrage *manjo-ziou*,  
Contenant tous deux une collection d'anciens poèmes.

第1巻p.106 挿絵9の説明

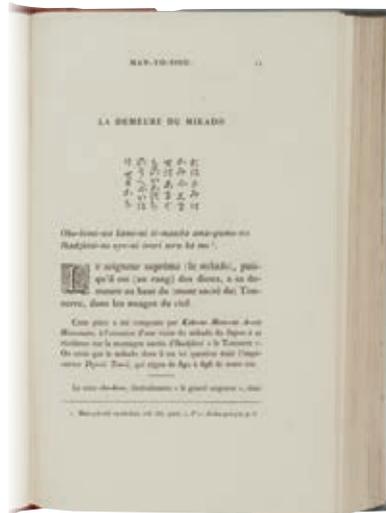
イサーク・ティチング (Isaac Titsingh 1744-1812) はシーボルトよりも40年以上早く安永8(1779)年にオランダ商館長として来日し、3期にわたり通算3年8か月滞在しました。本書はフランス語で出版された『日本における婚礼と葬式』(1819年)と『歴代將軍譜』(1820年)をあわせたもので1822年に出版されました。

婚礼の記事や図版は江戸時代中期に出版された『婚礼仕用器粟袋』を典拠としており、嫁入り道具の黒棚<sup>2</sup>の2段目に『古今集』と『万葉集』を載せると説明されています。

## ロニー『詩歌撰葉』1871年刊

Anthologie japonaise poésies anciennes et modernes des insulaires du Nippon / traduit en français et publiées avec le text original par Léon de Rosny ; avec une préface par Ed. Laboulaye  
Paris : Maisonneuve et Cie, 1871 <請求記号 VF5-Y2845>

レオン・ド・ロニー (Léon Lucien de Rosny 1837-1914) はフランスの日本研究者です。独学で日本語を学んだとされ、1862年には文久遣欧使節団の通訳を勤めています。本書は『万葉集』や百人一首などの日本の詩歌を集めたもので、『万葉集』は橋千蔭の『万葉集略解』を底本として長短歌9首が掲載されています(脚注・解説中にさらに3首を掲載)。平仮名表記、ローマ字表記とフランス語訳が掲載され、巻末には漢字本文の美しい彩色図版もおさめられます。



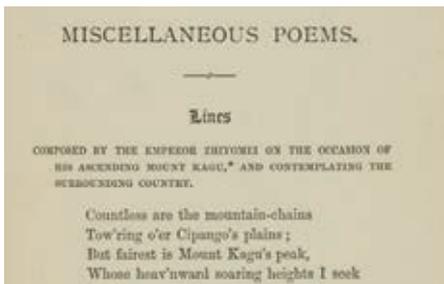
巻3・235番歌



右は巻3・235番歌、左は巻3・238番歌。絵柄は235番歌によまれる雷をモチーフとしたものか。

## チェンバレン『日本人の古典詩歌』1880年刊

The Classical poetry of the Japanese / [translated] by Basil Hall Chamberlain  
London : Trübner, 1880  
<請求記号 A-11>



巻1・2番歌

バジル・ホール・チェンバレン (Basil Hall Chamberlain 1850-1935) はイギリスの日本研究者で、明治6 (1873) 年から明治44 (1911) 年まで日本に滞在し、東京帝国大学などで教鞭をとりました。チェンバレンは本書の序論において、日本人は模倣が巧みであるが、日本の詩歌は日本民族独自のものであると述べています。本書には『万葉集』、『古今集』、謡曲の英語訳がおさめられ、『万葉集』は長歌を主として約70首が翻訳されています。

## プフィッツマイアー『万葉集歌鈔』1872年刊

Gedichte aus der Sammlung der zehntausend Blätter / von A. Pfizmaier..  
In Commission bei K. Gerold's Sohn, 1872.  
<請求記号 63-92>

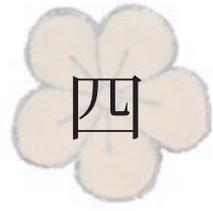


巻4・587番歌

オーストリアの東洋学者アウグスト・プフィッツマイアー (August Pfizmaier 1808-1887) がウィーンの学士院紀要に発表したもので、『万葉集』巻4相聞、巻3挽歌から短歌を主に200首余りがドイツ語に翻訳されています。序文においてプフィッツマイアーは『万葉集』巻1~3の言語の半ばは理解できなかつたと記しており、先駆者としての苦労がうかがわれます。漢字本文と片仮名の読み、ローマ字表記も記されています。

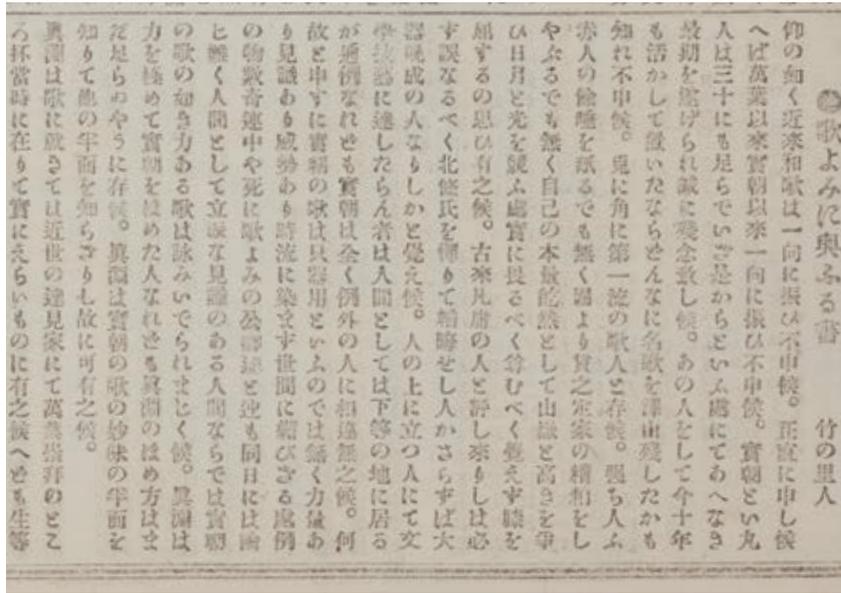
(1) 1834年に出版された『仏訳日本王代一覽』(ティチング訳、クラブロート (Julius von Klapproth 1783-1835) 校訂増補 *Nippon o dai itsi ran, ou, Annales des empereurs du Japon* <請求記号 VF5-Y2369, 952-H412n>) の脚注に『万葉集』巻18の4097番歌の翻訳が記載されており、これが万葉集翻訳の最初期の例とみられます。

(2) 黒棚は嫁入り道具の三棚(御厨子棚・黒棚・書棚)の一つ。



# 四 近現代の万葉集折々

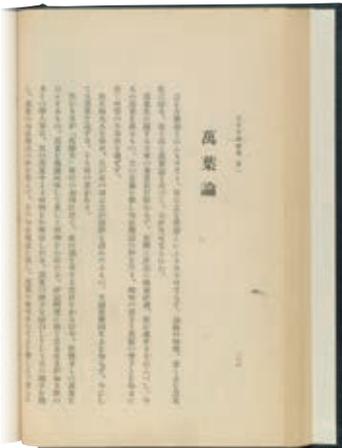
## 子規「歌よみに与ふる書」



「歌よみに与ふる書」新聞『日本』明治31(1898)年2月12日<請求記号 新-9>

俳句の手法に「写生」の理念を持ちこみ、俳句の革新運動を進めた正岡子規は、短歌においても革新の必要性を訴えました。「歌よみに与ふる書」にはじまる新聞『日本』での10回の連載(明治31(1898)年2月~3月)を通じて、「近来和歌は一向に振ひ不申候」と短歌界の現状を憂い、古今和歌集以来の短歌は技巧を重視するあまり歌の真実味が損なわれている、と指摘します。その一方で、子規が高く評価したのが万葉集であり、『金槐和歌集』の源実朝(鎌倉幕府第三代将軍、歌人)でした。また、「万葉集巻十六」(明治32(1899)年2月~3月『日本』)では「万葉集は歌集の王なり」と記し、その真摯で高古な特色は古今和歌集などとは比較にならないと述べ、「歌を作る者は万葉を見ざるべからず」と断じています。

## アララギ派による万葉集研究



伊藤左千夫「万葉論」(『左千夫歌論集』  
巻1 岩波書店 昭和4-6<請求記号  
585-98>)

子規門下の歌人たちは、子規没後も万葉集の研究に心血を注ぎ、実作においても写生と万葉主義を基本的立場としました。伊藤左千夫は『馬酔木』の創刊号と第2号に「万葉論」を発表(明治36(1903)年6月~7月)、山上憶良・山部赤人の写実性を評価し、その継承を表明しています。また、島木赤彦は『歌道小見』(アララギ叢書 第16編(岩波書店 大正13(1924)年))において、「万葉集は、我々の遠い祖先から伝はつた歌の精神を、最も素直に受け継いで」おり、単純一途、原始的な強さと太さ、子どものような純粋さと自由さをもって、どの歌を見ても生き生きとしている、と称揚しています。

明治以降、『万葉集』はさらに広く一般に読まれるようになりました。当館所蔵資料の中から、ブームになった本など、代表的なものをご紹介します。

## 『主婦之友』企画・特別大懸賞『万葉百歌選』

家庭婦人向けの月刊誌『主婦之友』は、万葉集から名歌百首の選定を企画し、昭和2（1927）年読者による人気投票を実施しました。主婦之友社社長の石川武美は、「今日の小倉百人一首の歌がるたよりも、もつと優雅で而も教育的なかるたを」（『主婦之友』11(1)昭和2（1927）年1月号）と企画の意図を記しています。集計の結果、翌昭和3（1928）年1月号で入選百首を発表しました。投票者の中から、抽選で500名に景品として『万葉絵歌留多』が贈られました。かるたの絵は画壇を代表する安田靉彦ら5画伯によるもので、力の入れようがうかがえます。徳富蘇峰は、この企画について、万葉集を「平民化」「家庭化」するのによい思いつきであると評しています（『主婦之友』12(3)昭和3（1928）年3月）。



かるたの絵札の例。平福百穂 絵、尾上柴舟 字（『主婦之友』12（3）昭和3（1928）年3月）



「新春劈頭の特別大懸賞 『万葉百歌選』投票募集」（『主婦之友』11(1) 主婦之友社昭和2（1927）年1月）＜請求記号 Z6-29＞

## 斎藤茂吉『万葉秀歌』



万葉秀歌 下巻（岩波新書）斎藤茂吉 著  
東京 岩波書店 1940  
（4刷）＜請求記号  
911.123-Sa266m＞

『万葉集』の注釈書には、窪田空穂『万葉集選』（日  
月社 大正4（1915）年）や島木赤彦『万葉集の鑑  
賞及び其批評』（岩波書店 大正14（1925）年）な  
どさまざまありますが、長く読み継がれているもの  
としては、斎藤茂吉『万葉秀歌』上下（岩波書店  
昭和13（1938）年）があります。岩波新書創刊時（昭  
和13（1938）年11月）の20冊に含まれるもので、  
今なお版を重ねる超ロングセラーです。茂吉は序  
で「万葉集は我国の大切な歌集」であると説き、「国  
民全般が万葉集の短歌として是非知って居らねば  
ならぬもの」を選び（365首）、「万人向きな、誰に  
も分る『万葉集入門』を意図した」と述べています。

## 『新万葉集』



『読売新聞』昭和12（1937）年12月19日＜請求記号 Z81-16＞

昭和12（1937）年、改造社社長の山本実彦は、明治・大正・昭和  
三代の歌を集めた『新万葉集』を刊行することを発表しました。著  
名な歌人の作品だけでなく、新聞雑誌に広告を打って、一般からの  
投稿も大々的に募集しました。応募作は約40万首にも及び、審査員  
10名はタイプライターで印字された薄青い字の応募作を一日何千首  
と読まなければならず、審査を振り返って「殺人的」と述懐するほど  
骨の折れる仕事でした。皇族の作品は別巻「宮廷篇」に収録し、天  
皇から無名の歌人にまで及ぶ現代の万葉集として『新万葉集』を刊  
行しました（本巻9巻、別巻「宮廷篇」、補巻1 昭和12（1937）年～  
昭和14（1939）年）。

◎参考文献  
(全般)

『校本万葉集』首巻, 諸本輯影 校本万葉集刊行会 1924-1925  
『万葉集大成』第2巻(文献篇) 平凡社 1953  
佐々木信綱著『万葉集事典』平凡社 1956  
『日本古典文学大辞典』岩波書店 1983-1985

(第1章)

鈴木淳「万葉集出版小史」(『江戸文学』(15) 1996.5)

(第2章)

『契沖全集』第1-7巻 岩波書店 1973-1975  
『賀茂真淵全集』第6巻 続群書類従完成会 1980  
『本居宣長全集』第6巻 筑摩書房 1970  
関根正直「万葉集略解編成の事情」(『帝国文学』8(6) 1902.6)  
『万葉集放証(万葉集叢書 第5輯)』古今書院 1924-1926  
尾形裕康著『万葉学の大成 鹿持雅澄の研究』三和書房 1954

(第3章)

小倉久美子「黎明期の万葉集翻訳」(『万葉古代学研究年報』(15) 2017.3)

川村ハツエ訳『日本人の古典詩歌』七月堂 1987

(第4章)

品田悦一「『万葉集』はこれまでどう読まれてきたか、これからどう読まれていくだろうか」『分断された時代を生きる(知のフィールドガイド)』東京大学教養学部編 白水社 2017.8

フォンリュブケ留奈子「『万葉集』に見られる大正・昭和初期の日本人論」(『アルザス日欧知的交流事業日本研究セミナー「大正・戦前」報告書』2014.8)

[https://www.jpff.go.jp/j/project/intel/exchange/organize/ceeja/report/11\\_12/pdf/11\\_12\\_04.pdf](https://www.jpff.go.jp/j/project/intel/exchange/organize/ceeja/report/11_12/pdf/11_12_04.pdf)

坪内総典「正岡子規・アララギ派歌人の万葉集研究」(『国文学 解釈と鑑賞』51(2) 1986.2)

冷水茂太「『新万葉集』刊行の事情と当時の歌壇」(『短歌』12(6) 1965.6)

品田悦一「語られなかった日本精神--斎藤茂吉『万葉秀歌』の一面」(『国文学 解釈と教材の研究』52(14)(通号758)2007.11)

田坂憲二著『日本文学全集の時代 戦後出版文化史を読む』慶應義塾大学出版会 2018.3

※『万葉集』歌番号は国歌大観による。

## 戦後の万葉集



平凡社『万葉集大成』第1巻(総記篇)平凡社 1953  
<請求記号 911.12-H418 m>  
全22巻, 昭和28(1953)年~昭和31(1956)年  
装幀 恩地孝四郎

1950~1960年代にかけて、出版界では全集もの・講座ものの一大大ブームが起こりました。出版各社が競うように文学全集を出す中には、万葉集も含まれていました。たとえば、『万葉集講座』(創元社 昭和27(1952)年)、『万葉集大成』(平凡社 昭和28(1953)年)、『日本国民文学全集』(河出書房 昭和31(1956)年)などです。昭和32(1957)年には、岩波書店から日本の古典を集大成した『日本古典文学大系』(全66巻 別巻1)の第一回配本として『万葉集・一』が刊行されました。「万葉集という歌集は、とにかくわれわれが、無条件にたのしめる文化遺産である。」と解説冒頭で謳っています。

その後も、昭和元年から50年までの歌を対象とした『昭和万葉集』(講談社 昭和54(1979)年~56(1981)年)の刊行や、NHKの番組「日めくり万葉集」など、様々な形で、万葉集は愛され続けています。

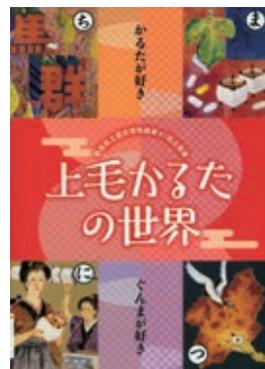
漢字だけで記された『万葉集』を読むことは、平安時代にはすでに難しくなっていたとみられ、村上天皇は『後撰和歌集』の編纂スタッフであった源順らに『万葉集』を読み解くよう命じています。鎌倉時代には僧・仙覚により『万葉集』全歌の読み下しが行われましたが、その後も読み改訂は行われ続けており、いまだに定説といえる読み方がない歌もあります。

私たちは千年以上にわたる研究史の蓄積を踏まえて『万葉集』を読んでいます。読み方だけでなく解釈、成立事情などにも未解決な点やわからない事柄はたくさん残されています。額田王と大海人皇子の歌の例のように解釈が変わっていくこともあり、定説と考えられていることが今後覆る可能性もあります。『万葉集』は解き明かされ尽くしたとはいえず、それも『万葉集』の魅力といえるでしょう。

(1~3章:利用者サービス部人文課古典籍係、4章:総務部総務課編集係)

梅の様子はすべて、古谷紅麟『梅つくし』山田芸仲堂 明40.2  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/854297> より。

# 本屋に ない本



上毛かるたの世界  
かるたが好きぐんまが好き  
群馬県立歴史博物館第97回企画展

群馬県立歴史博物館 編集・発行  
2018.10 79p 30cm  
<請求記号 KD958-L364>

「つ づる舞う形の群馬県」、「く 草津よいとこ薬の温泉」。かるたとして累計130万部を超える日本一の発行部数を誇り、70年以上の長きにわたって競技大会を開催している郷土がある。群馬県の歴史・自然・人物・産業などが描かれた44枚の絵札と、対になる読み札とで構成される、「上毛かるた」である。昭和22（1947）年に、群馬県の古称である「上毛」の名を冠して発行され、現在でも群馬県内を中心に親しまれている。

本書は、平成30（2018）年10月から12月まで開催された、群馬県立歴史博物館第97回企画展「上毛かるたの世界」かるたが好き ぐんまが好き

「」の図録資料である。企画展の図録ということで、参考写真やイラストが豊富に掲載されており、そこにつけられた解説文一つひとつも読みごたえがある。

第1章、第2章は、上毛かるたの誕生からそれぞれの札に込められた思いまで丁寧に説明する構成となっている。戦後すぐに行われたかるたの制作は、容易ではなかった。当時は、GHQ（連合国軍最高司令官総司令部）の指令により、学校での歴史・地理、道徳教育等が停止されていた。そんな中で、なんとか日本の、郷土の文化を残していきたい、との思いで制作したのが上毛かるたであるという。GHQに

よる検閲を受けながら札の選定作業を行う等、並々ならぬ努力が垣間見える。なんとか多くの情報を伝えるため、義理人情の言葉と雷神の絵から成る「」の札に、検閲で不採用となった人物を託して一番上に箱詰めする等、何気ない札一つを取っても、隠された意図や思想が強く込められている。

第3章では、かるたのあゆみや全国の郷土かるたが紹介され、研究者による論考が2本掲載されている。論考では、ただ上毛かるたを賛美するだけではなく、郷土かるたに託す未来への展望等が語られており、前章までとは違った視点で興味深い。最後に、第4章では、主に上毛かる

たの競技大会について触れられている。従来の競技大会は、群馬県内で完結するものであったが、2013年からKING OF JMK (JoMou Karuta) の名称で、全国大会も行われているとのことだ。

上毛かるたは、将来を担う子供たちに郷土に対する誇りを失わせたくない、との思いで制作された。発行から70年を経た今、社会は国際化が進み、世界の中の日本という立ち位置を意識させられる場面は多い。国際化が持たはやされる現代だからこそ、あえて郷土に目を向けてみる。自身の土台となる文化を見つめ直すと、新たな発見があるかもしれない。（前田紘志）

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介いたします。

# 国立国会図書館で働いています

no.1

種をまく仕事ですね



—広報の仕事一年目、どうですか？

広報の大切な仕事の一つに、見学に来られた人を案内する業務があるのですが、そのお仕事が楽しく、やりがいを感じています。書庫などを案内すると、見学者のみならず、新鮮な反応で喜んでくださいます。図書館の施設や役割を説明し、それに対して感動したり、驚いたりしてくださる様子を見ると、こちらでも元気をもらえるし、この仕事をやっていて良かったなと感じる瞬間です。見学に来られる人の多くは、国立国会図書館をまだ使ったことがない人や中高生など、これから使っていたく人なので、潜在的な利用者に種をまく仕事だな、と思います。

—先日のことも霞が関見学者はいかがでしたか？

参加者の皆さんには楽しんでもらえたのではないかなと思います。お祭りのなごやかな雰囲気の中、保護者の皆さんからの期待も高く、子どもたちからも関心の高さを感じました。(↓27ページ)

—取材対応も多そうですね。

取材に对应する際は、国立国会図書館の役割や業務を丁寧に伝えていくことが大事です。

—そのほかにはどんなお仕事がありますか？

見学や取材対応は、依頼を受けて行う仕事ですが、それとは別に、Twitterでの情報発信、ホームページのニュース欄の更新、パンフレット作成など、こちらから発信する仕事もあります。Twitter、YouTube、ホームページなどによる情報発信は、多くの部署が関わっているのですが、その内容を広報の観点からチェックします。そうした日常的な業務のほか、先ほど話題にあがったことも

霞が関見学者

や図書館総合展

といったイベント

に参加する準備もあります。

また、朝の日課

として、新聞や

インターネット

に載った国立国会図書館に関する記事

を丁寧にチェックしています。

—各部署から上がってきた発信内容は、広報方針に沿って厳しくチェックするのですか？

内容の細部までは、その部署が一番詳しいので、それほど意見をする必要はないですが、受け手にとって分かりやすいか、誤解を与える表現はないかという観点から、しっかりと確認するようにしていますね。一つの文が長すぎたり、表現が専門的すぎたりすると、受け手になかなかわかりにくいと思います。詳しくない人が読んでも、ストンと理解できるのが理想的です。

聞き手：総務課編集係

## 奥村牧人 総務課 課長補佐 (広報)

H17 (2005)	年4月	入館 国会レファレンス課レファレンス第一係
H18 (2006)	年4月	国会レファレンス課連絡調整係
H19 (2007)	年7月	政治議会課
H23 (2011)	年9月	参議院事務局委員部に出向
H25 (2013)	年7月	複写課遠隔複写係
H28 (2016)	年4月	総務課総務係長
H31 (2019)	年4月	総務課 課長補佐 (広報)

——そういつとときに、見学や取材での経験が活きるのでしょうか？

なんとなくわかる部分がありますね。こういう言葉だと伝わらなかつたな、という経験があるので。

——ほかに、苦労していること、気を付けていることはありますか？

基本的にオープンな姿勢を心がけています。発信した内容は館の公式見解になるので、やはり慎重になることもあります。ただ、それが行き過ぎるとどうしても閉鎖的な印象を相手に与えてしまい、広報的にはマイナスになります。また、スケジュールが混みあっているときであっても、できる限り対外的なアポを受けるようにしています。国立国会図書館が担っている役割や事業を多くの人に知ってもらい、理解を得ていくことは、私たちが仕事をしていく上で大切な基盤になると思うからです。

◆ ◆ ◆  
——どうして、そもそもこうして国立国会図書館を志望したのですか？

実は面接試験に進むまで国立国会図書館のことはよく知らなかつたんです(笑)。就職志望先の数ある選択

肢のひとつで。面接に進む過程で調査及び立法者査局の存在を知って、学生時代に勉強していたことを活かせるかと思いました。

——最初が国会議員などからの調査依頼を受け付ける国会レファレンス課、次がより専門的な主題を扱う政治議会課で、議会担当だったとのことですが、もともと議会制度について専攻していたのですか？

いえ、専門ではなかつたので、政治議会課で勉強しなりました。もともとは戦後日本外交史や日米関係を専攻していました。大学院の時は、1960年代の外交文書がたくさん公開され始めた時期だったのでそれを使って研究していました。

——その後の参議院事務局委員部への出向はいかがでしたか。

出向がきっかけで、それまで議会担当として調査・研究の対象として見てきた国会の現場に足を踏み入れることになりました。委員部というのは、立法過程の中心である委員会運営のロジ<sup>1</sup>を行うところです。入館以降、自分は調査業務一本でロジ業務に携わる機会はありませんでした。

すが、その大切さと面白さに気付いたのもこの時期です。元来、図書館は調査や調べ物支援(レファレンス)などの業務を行っていることもあり、主題に関する専門性がサービ<sup>2</sup>スを提供する上で大きな武器になっているので、サブ業務<sup>2</sup>というか専門性に基づいた業務の比重が大きくなる傾向があるように思います。でも、しっかりとしたロジ<sup>1</sup>があつてこそ、それらの仕事がうまく回り、最大限に活かされるんですよね。会場の設営、会議日程の連絡、配付資料の準備など、ひとつひとつは地味な仕事も多いですが、いずれも前線の仕事を陰で支える大切な仕事です。

——出向から戻つてきて配属された複写課も別の意味で現場ですね。

現場感がある雰囲気が好きでした。電話やカウンターからの呼び出し。適度な緊張感もあるし、利用者がどのようなサービスを求めているか知る機会も多かったです。その次の総務課総務係もロジ的なものが多く、慌た

だしい雰囲気の中、フットワークの軽さが求められる仕事でした。机に向かつてじっくり腰を落ち着けて仕事をすることがもうできないですね(笑)。

——海外出張に行かれるなど、国際的なイメージがありますが、海外にご縁があるのですか？

帰国子女ではないのですが、父親のカナダ留学中に自分が生まれ、1歳くらいで日本に帰国しました。留学中の両親の交友関係は帰国後も続いたようで、自分が幼い頃から、家以外国のお客さんや留学生が頻繁に来ていた記憶があります。1階の和室にアメリカ人がホームステイしているなんてこともありました。また、複写課在籍中の2014年に、利用者サービスの新しい計画策定の参考とするため、欧米4か国の国立図書



書庫見学の様子

1 ロジ=ロジスティック業務の略。もともとは軍事用語で兵站。広く裏方業務を指す。

2 サブ=サブスタンス業務の略。政策等の中身のある業務を指す。

館を調査しました。

——オープンな考え方は、ご両親の影響もあるかも？

何らかの影響は受けていると思います。両親がカナダ、アメリカ、ジャマイカなど様々な国からのお客さんを家に迎え、奈良公園を案内したりするのを一緒に付いて行ったりしていました。今の広報のお仕事とも通じるものがあるかもしれません。

——そのほか学生時代やプライベートの経験で仕事に活かされていることはありますか？

最近では、こども霞が関見学デーの準備ですね。今年度、偶然にも小学6年生の長男が中央省庁の霞が関見学デープログラムに当選したのですが、参加する前日に、副大臣相手の質問内容を考えていました。そのかわらで、自分は国立国会図書館のプログラムに参加する小学生からの質問にどう答えるか準備をしていました。同じ家の中で、参加する側とそれを迎える側がそれぞれに準備しているのが面白かったです。「その表現は難しい」など子どもから意見を受け、それがきっかけで修正した

りもしました。

大学時代には、語学留学で3か月間を韓国で過ごし、その間は現地の韓国人学生6人と寝食を共にしました。また、サークル活動では、大学に在籍している留学生と日本人学生とが交流する場を提供する活動をしていました。

いずれも、考え方や価値観が違う人たちとの共同作業を要する経験です。こうした経験は、入館以降、様々な部署や職場で働き、いろいろな背景を持った人と一緒に仕事をしていく中で活かされてきたのではないかなと思っています。価値観の違う人とは結局わかりあえないんだと割り切る考え方もありますが、粘り強く相手に向き合っていけば互いに理解しあい、どこかで着地点を見出すことができると信じてます。仕事をしていくときにも、話をなるべく丁寧に聞いて相手のことを理解しようと努めています。

——休日の過ごし方やストレス解消法など教えてください。

体を動かすのが何よりのストレス解消ですね。休日には、地域のババさんフットサルに参加しています。また、

自宅周辺は自然が多く、ファミリー世代が多い地域なので、近くの友人家族と一緒にバーベキューをしたり、キャンプに行ったりしています。



——これから広報の仕事をごんごんにしていきたいですか。

国立国会図書館の広報活動は、総務課広報係だけでなく、多くの職員が関わっています。例えば、職員が外の機関に出張したり、打合せに行ったりして、そこで業務を説明すると、それはまさしく広報活動ですよ。こうした活動をサポートすると同時に、より多くの職員を広報に巻き込む仕組みを作っていけないかと考えています。今までの仕組みではくいあげられていないような館内の広報ニーズをうまくすくいあげることができるよう多くの選択肢を提示していきたいです。そうすることで、もっと多くの方に国立国会図書館のことを知ってもらう機会が増えると思います。

——これから国立国会図書館はどうあるべき、どうなると思いますか。

国会活動の補佐、資料・情報の収集・

保存、情報資源の利用提供といった基本的役割は、時代を超えても変わらない役割であると思います。他方で、これらの大切な役割をどのように遂行し、かたちにしていくか、その具体的な方法や在り様は情報環境がどんどん変わっていく中、私たちもその変化とは無縁ではられません。国民共有の文化的資産をどうしたら多くの人に届けることができるのか、情熱を持って取り組んでいかなければいけないと思います。



# こども霞が関見学デー

「こども霞が関見学デー」は、子どもたちを対象に、様々な体験プログラムや職場見学などを行うことで、親子の触れ合いを深め、子どもたちが夏休みに広く社会を知る機会を提供するイベントです。各府省等が連携し、行っているプログラムで、国立国会図書館は、平成12（2000）年度から参加しています。

今年度は、令和元年8月7日・8日に開催され、国立国会図書館のプログラム「日本でいちばん大きな図書館を探検しよう！」には、抽選で当選した親子65人が参加してくれました。見学デー当日の様子を紹介します。

AUGUST  
7TH & 8TH,  
2019

日本でいちばん大きな図書館を  
探検しよう！



## 地下8階まである 書庫に行ってみよう！



書庫からカウンターまで  
資料を運ぶ搬送機



集密書架のスイッチを押してみる

地下8階から上を見上げると……

# 地震を知ろう・考えよう

「ひなぎく」は、国立国会図書館が運営する、東日本大震災に関する膨大な記録をまとめて調べるためのポータルサイトです。「ひなぎく」を使って、クイズ形式でお話をしたり、実際にパソコンを使って自分で調べてもらったりしました。子どもたちの地震や防災に対する関心の高さ、そして様々な情報に対する好奇心の強さを感じました。



(上) 地震クイズの回答風景  
(左) ひなぎくの説明



## 「本の病院」を 見てみよう！

資料の保存は、国立国会図書館の大切な仕事の一つです。資料の修復作業を行う部屋に移動し、傷んだ資料が修復されていく様子を間近で見学しました。普段はなかなか見る機会のない、修復現場の様子に子どもたちは興味津々です。整然と並んだ作業用の道具一つひとつにも関心を示していました。

(左上から時計回りに) 解体した資料を糸で綴じなおしているところ、本の背に接着剤を塗っているところ、修復に使用する極薄の和紙



# 館長とお話ししよう！

館長とお話しをする場所は、ちょっとだけ特別な会議室です。最初は少し表情が硬かった子どもたちも、会話が進むにつれて緊張がほぐれていきました。館長への質問タイムには次々に手が上がり、時間が足りないほど、たくさんの質問をしてくれました。



(左) 特別会議室での様子  
(下) 館長室も見学



こども霞が関見学デーの2日間は、子どもたちだけでなく私たち職員にとっても特別な日です。真剣なまなざしで話を聞いている子どもたちの様子を見ながら、私たち職員の地道な仕事が、子どもたちの未来につながる大切なものであることを、改めて思い起こさせてくれる貴重な2日間でした。

アンケートから

とっても  
おもしろかった

日本の資料、  
書物の中心はここな  
んだなと強く感じた

みんなの質問に  
真剣に答えてくれた  
(館長とお話)



(左) 修復作業で使用する噴霧器の霧の細さを体感しているところ

## 「国立国会図書館って、 すべての本があるんでしょ？」



月末に発送する督促の郵便物の束



「国立国会図書館って、すべての本があるんでしょ？」

親戚や友人から仕事について尋ねられ、国立国会図書館に勤めているとこたえると、しばしばこのようなコメントが返ってきます。当館職員であるかもしれません。

「すべての本がある」——より具体的にいえば「国内で発行された出版物を網羅的に収集し、所蔵している」。そんな当館の蔵書構築の、大きな基盤となっているのが納本制度です。発行者（出版社など）が出版物を国立国会図書館に納めることが、法律で決まっています。

発行者には納本が義務付けられていますが、じつは納められていない出版物も多く存在します。私が所属している国内資料課収集第一係では、納められていない出版物の調査と、それにもとづく発行者への納本のお願（督促）を行っています。

調査・督促業務のルーティーンをご紹介します。まず、流通データや職員からの情報提供をもとにリストアップされた「当館に納められていないと思われる出版物」について、すでに所蔵があるものを間違って督促することなどが無いよう調査を行います。手元になく出版物について情報を集め、どのようなものか見極めていくことは、困難な場

面もありますが、こんな出版物があるのか、と発見のある楽しい作業でもあります。調査の結果、当館に納められていないと判断された出版物の発行者へ、納本のお願の文書を郵送します。郵便の宛先はひと月あたり約300件、納本をお願いする資料は約1,200点です。

本の流通経路にのらないCDやDVD等の録音・映像資料、楽譜やゲームソフト等の出版物、企業の周年事業で作成された社史など一般には流通していない出版物の収集にも注力しています。形態や流通の関係で、発行者が納本対象だと思っていなかった、というケースも多く、納本のお願が、制度を知ってもらうことにもつながります。

お願いをした発行者から出版物が納本されると、なんともいえない達成感をおぼえます。その出版物が、当館の書庫で永く保存されるのだと思うと、感慨もひとしおです。また、未来の利用者に「この本、国立国会図書館だけ所蔵があった！さすが国立国会図書館！ありがとう納本制度！」と思ってもらえたりするかもしれません。明日か百年後かはわかりませんが、そんな未来をひそかに期待し、今日も調査・督促業務を通して当館の蔵書構築の一端を担っています。

（国内資料課 9番ジャッジ）

# 数字で見る 国立国会図書館

『国立国会図書館年報 平成30年度』から

『国立国会図書館年報 平成30年度』をもとに、  
国立国会図書館の業務、サービス、組織に関する  
おもな数字を抜粋しました。

※数字は平成31年3月31日現在（平成30年度の実績）

国会へのサービス  
依頼調査回答

3万7897件

国会議員等からの依頼に基づき、国政  
課題や内外の諸事情に関する調査、法  
案の分析・評価などを行っている。

国政課題に関する  
調査研究

323件



行政・司法支部図書館へのサービス  
貸出6046点

支部図書館制度に基づき、各府省庁および最高裁判所に  
支部図書館が設置されている。この図書館ネットワーク  
をもとに、図書館サービス、資料の交換が行われている。

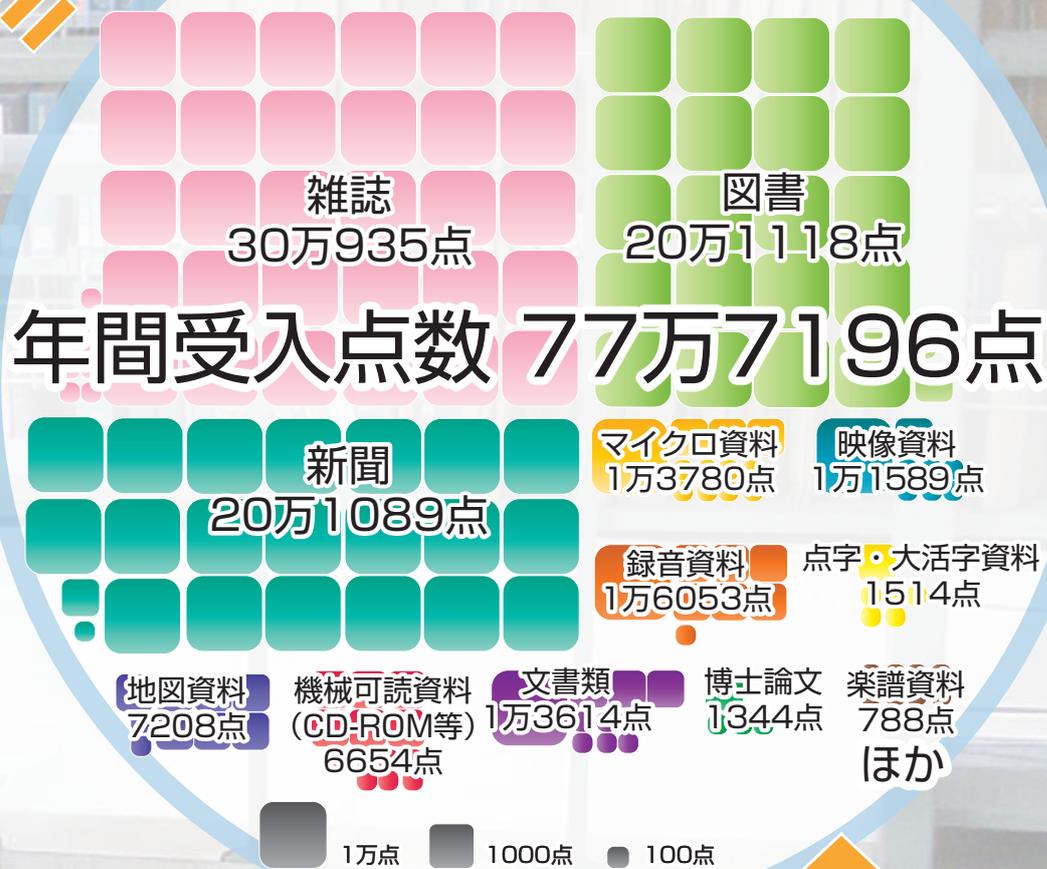
『国立国会図書館年報』は、ホームページでもご覧になれます。  
<https://www.ndl.go.jp/jp/publication/annual/index.html>

書誌データ作成数（年間）

56万8341件

書誌データ提供数（総計）

2537万7283件



館全体の予算・決算  
歳出予算現額  
約244億9838万円  
決算額  
約220億9612万円

資料収集のための費用  
約23億3594万円  
うち、納入出版物代償金  
約3億9025万円

## デジタル資料点数

インターネット公開  
157万4119点

図書館送信  
151万0004点  
図書館向けデジタル化資料送信  
サービスの提供データ

館内限定  
84万5412点



## 所蔵点数

4418万

7016点

インターネット  
資料収集保存事業  
収集データ件数

15万8050件

収集データ容量

1.4PB

ホームページへの  
アクセス

1827万5403件

インターネットを通じて、蔵書目録、国会会議録等  
の各種データベース、調べものに役立つ情報などが  
利用できる

国立国会図書館サーチで  
統合検索できる書誌データ

9926万2211件

当館や他機関が保有する冊子体・デジタル化された  
画像・音声等の様々な形態の情報を検索できる

- 東京本館
- 関西館
- 国際子ども図書館

### 来館者

79万 1370人

- 57万5756人
- 7万2373人
- 14万3241人

### 閲覧

218万 5497点

- 205万 837点
- 10万5379点
- 2万9281点

来館して申し込む閲覧サービス

### 来館複写

132万 116件

うちプリントアウト件数  
61万 483件

来館して申し込む複写サービス

### 図書館等への貸出し

1万 6760点

図書館への貸出し、小中学生向けの  
学校図書館セット貸出し、展示会に  
出品するための貸出しがある

### 遠隔複写

28万 5409件

来館せずに申し込む複写サービス

### 職員数

888人

男性 49.5%  
女性 50.5%

専門調査員・管理職のうち女性の割合約 32.4%

### 建物延べ面積

22万 1256㎡

■ 14万 7853㎡  
国会分館 1331㎡

■ 5万 9311㎡  
■ 1万 2761㎡

### 書庫面積

10万 5695㎡

7万 8046㎡  
609㎡

2万 3926㎡  
3114㎡

### 閲覧室面積

2万 5864㎡

1万 8983㎡  
562㎡

4265㎡  
2054㎡

# NDL Topics



国会会議録検索システム  
<https://kokkai.ndl.go.jp/>  
 (上) トップページ  
 (下) 会議録本文のテキスト表示



帝国議会会議録検索システム  
<https://teikokugikai-i.ndl.go.jp/>



日本法令索引〔明治前期編〕  
<https://dajokan.ndl.go.jp/>



日本法令索引  
<https://hourei.ndl.go.jp/>

「国会会議録検索システム」、「帝国議会会議録検索システム」、「日本法令索引」、「日本法令索引〔明治前期編〕」をリニューアルしました（令和元年12月）

国会、帝国議会の会議録情報や、近代以降の日本の法令の制定改廃情報を検索できる4つのデータベースをリニューアルしました。

各トップページに検索ボックスを設け、幅広く検索できるようになりました。より厳密に検索したい場合には、「詳細検索」で条件を細かく指定することもできます。また、スマートフォン、タブレットでも見やすく表示されるようになりました。

より使いやすくなったデータベースを、どうぞご利用ください。



# 16 雪の日の東京本館

## 国際子ども図書館展示会

「子どもを健やかに育てる本2019―厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財（出版物）」

国際子ども図書館では、展示会「子どもを健やかに育てる本2019―厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財（出版物）」を厚生労働省との共催で開催します。

児童福祉文化財は、子どもたちの健やかな育ちに役立ててもらえるように、絵本や児童書等の出版物、演劇やミュージカルの舞台芸術、映画等の映像・メディア等の作品について、厚生労働省社会保障審議会が推薦を行っているものです。

この展示会では、同審議会が平成30年4月から平成31年3月までの期間に推薦した児童福祉文化財のうち、絵本や児童書35作品を直接手にとってご覧いただくことができます。

入場は無料です。ご来場をお待ちしております。

○開催期間 2月4日（火）～3月4日（水）

※月曜日、国民の祝日・休日及び第3水曜日（資料整理休館日）は休館

○開催時間 9時30分～17時

○会場 国際子ども図書館レンガ棟3階本のミュージアム

○問合せ先 国際子ども図書館資料情報課 展示係

電話 03（3827）2053（代表）



## 林光コレクション（手稿譜及びその関連資料）を追加公開します

音楽・映像資料室では、令和2年1月7日に林光コレクションを追加公開（内訳：手稿譜1,882点、関連資料2,822点）します。

林光コレクションは、オーケストラ、器楽曲、ピアノ曲、合唱曲、オペラ、映画音楽、音楽評論など多岐にわたる音楽活動で知られた林光氏（1931 - 2012）の手稿譜及び作曲活動に関連する資料のコレクションです。

今回の追加公開により、オペラ、合唱劇、管弦楽曲、重唱・合唱曲、吹奏楽曲、独奏曲、室内楽曲、映画音楽等のジャンルの手稿譜は合計2,420点、関連資料は合計2,910点となります。

○リサーチ・ナビトップの音楽・映像資料をさがす手稿譜及びその関連資料

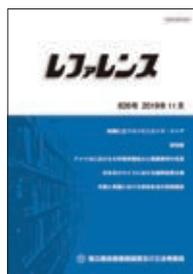
<https://navi.ndl.go.jp/avmaterial/entry/manuscript.php>

## 新刊案内

レファレンス 826号

転機に立つコンビニエンス・ストア  
認知症―状況・施策・課題―

アメリカにおける大学進学層拡大と職業教育の改革  
日本及びスイスにおける国民投票公報  
米国と英国における政府各省の財務報告―内部統制等に着目して―



A4 128頁 月刊 1,000円（税別）  
発売 日本図書館協会

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

電話 03（3523）0812

# 1

NATIONAL  
DIET  
LIBRARY  
MONTHLY  
BULLETIN  
2020.1

NO.705  
JANUARY  
2020

## CONTENTS

### New Year Greetings for 2020

- 03 <Book of the month - from NDL collections>  
*Heika shinasadame*—grading records for Akita apples
- 07 From NDL collections  
Books on the *Man'yōshū*
- 24 Working at the NDL, Episode 1
- 27 Children's Day for Visiting Kasumigaseki
- 31 The NDL in figures: from the Annual Report of the NDL FY2018
- 23 <Books not commercially available>  
*Jomo karuta no sekai*
- 30 <Tidbits of information on NDL>  
The NDL collects everything published in Japan, doesn't it?
- 35 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

令和2年1月号 (No.705)

令和2年1月1日発行

発行所 国立国会図書館  
編集責任者 三浦良文

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1  
電話 03 (3581) 2331 (代表)  
FAX 03 (3597) 5617  
E-mail [geppo@ndl.go.jp](mailto:geppo@ndl.go.jp)  
<https://www.ndl.go.jp/>

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。  
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。  
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<https://www.ndl.go.jp/>) >刊行物>国立国会図書館月報でご覧いただけます。



NATIONAL  
D I E T  
LIBRARY  
MONTHLY  
BULLETIN  
2 0 2 0 . 1

 国立国会図書館  
National Diet Library, Japan

図

国

国

書

人

士